



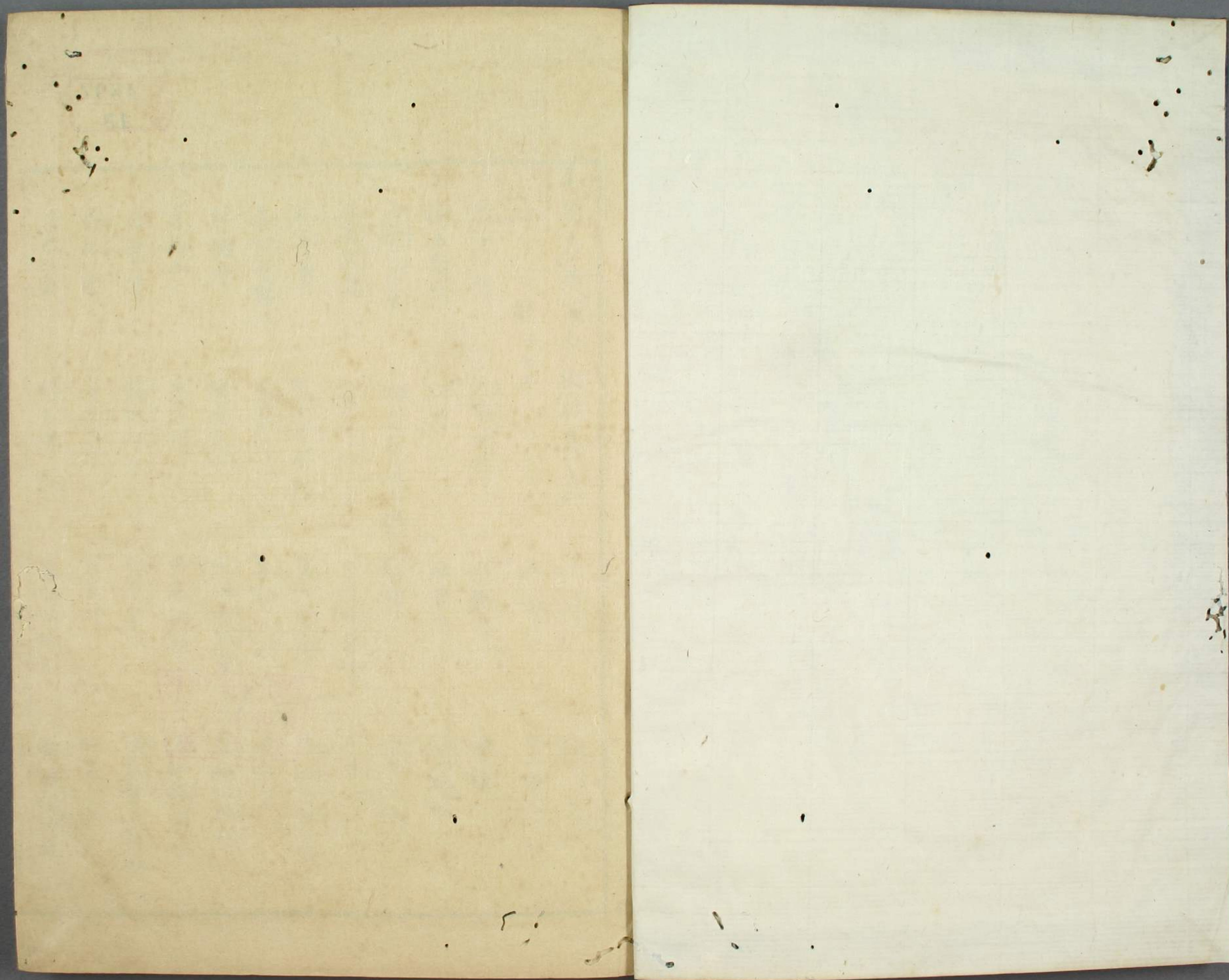
尾張名所圖會

後編

六

ル 4
4597
13





門 4
 號 4597.
 卷 13



尾張名所圖會後編卷之六

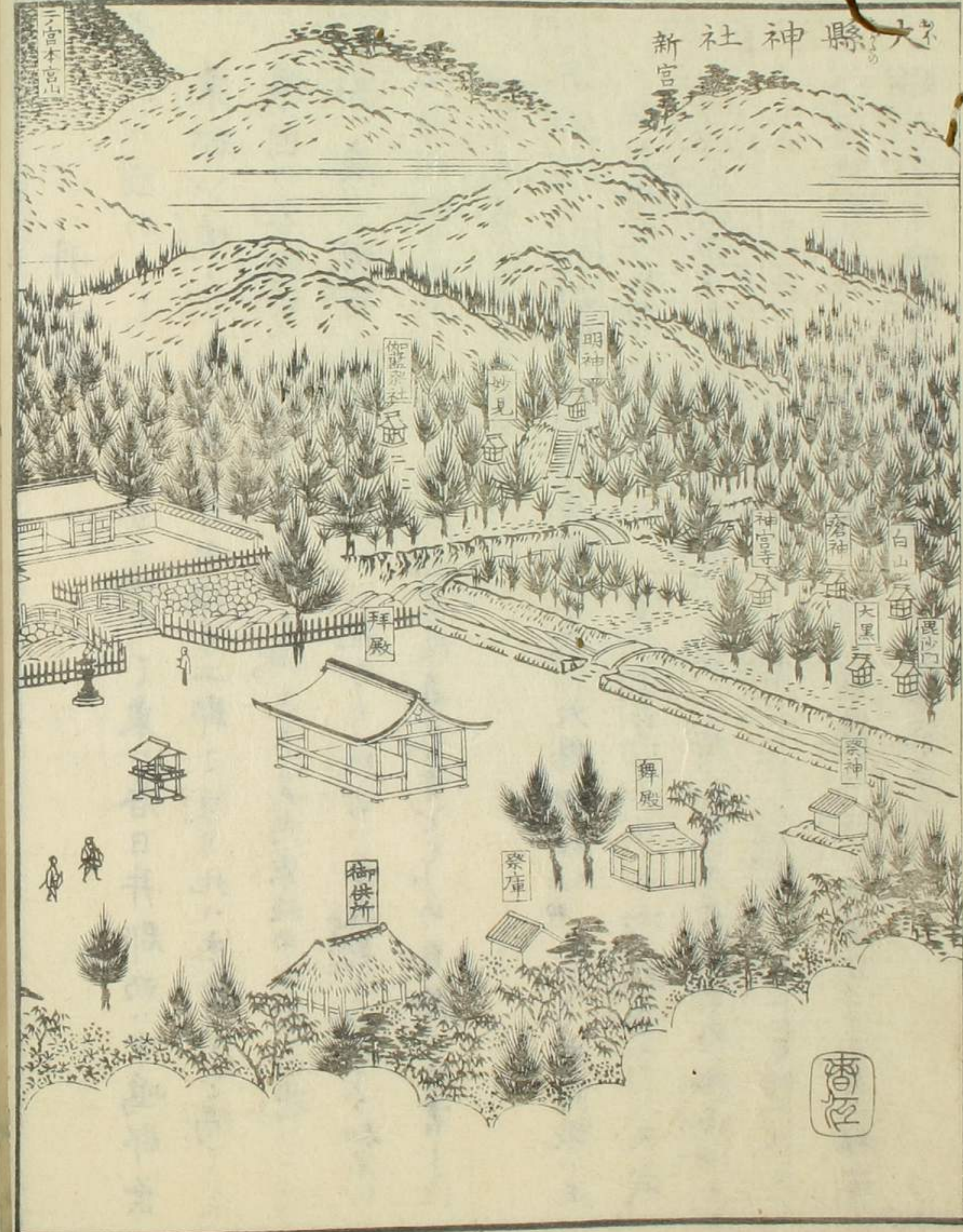
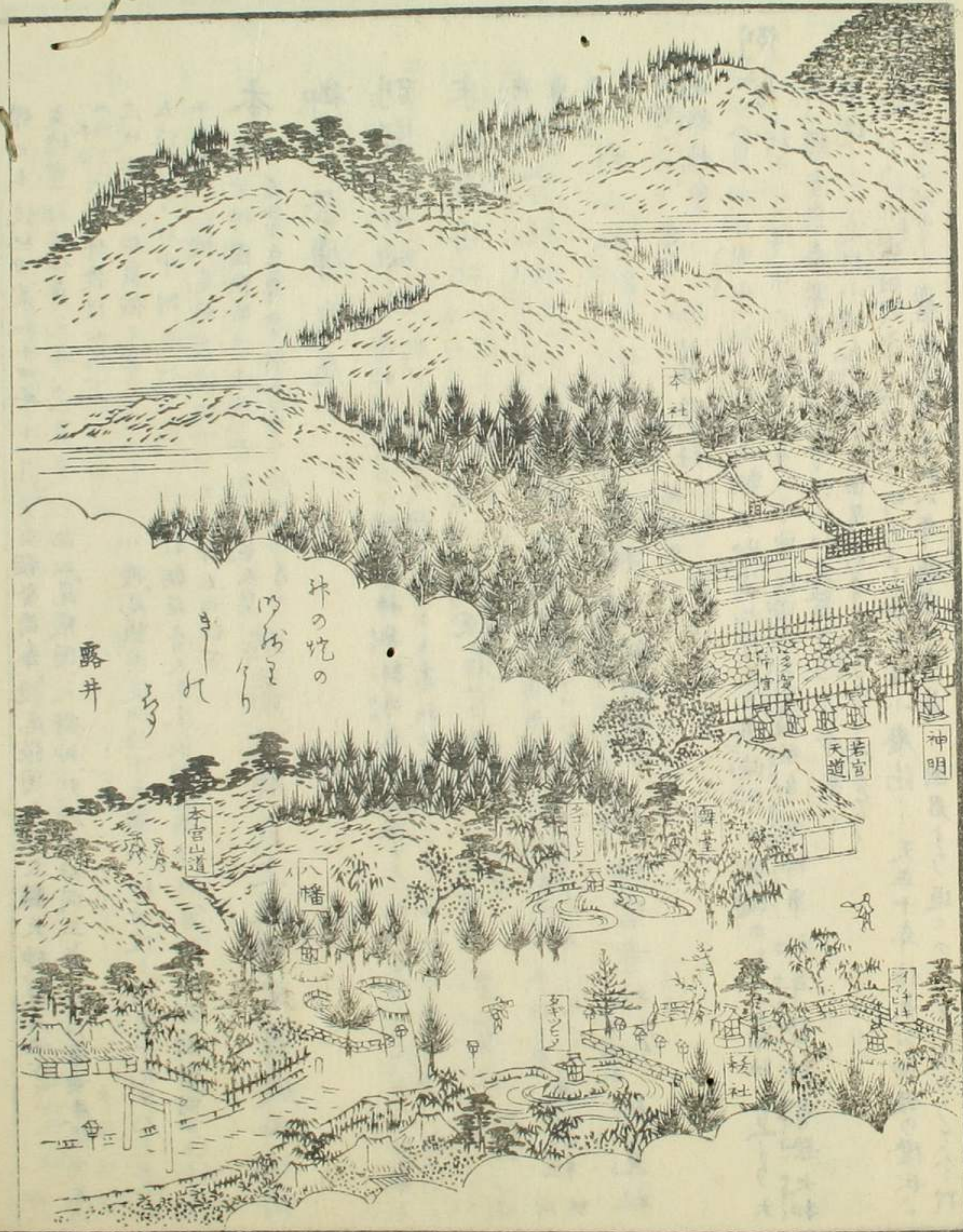
目錄 丹羽郡

丹羽郡解	大縣神社	例祭	神領
神主家系	社僧	本官山	鞍ヶ淵跡
山姥の古事	福富新藏山姥を射る圖	入鹿大池	入鹿大池
入鹿大關	入鹿袴船の圖	入鹿屯倉跡	小弓郷
尾張富士	富士淺間社	富士三ツ池	寺洞石切の圖
善師野驛	鷲岩	箕岩	清水寺
禪徳寺	繼鹿尾山	座禪石眺望	栗栖地神社
栗栖山	木曾川	虫鹿神社	栗栖棧圖
白雲寺	搗瓜妖火	羽黒里	比良賀天神社
興禪寺	磨墨塚	羽黒川	羽黒古城
羽黒合戰	野呂塚	梶原城址	鳴海柵神社

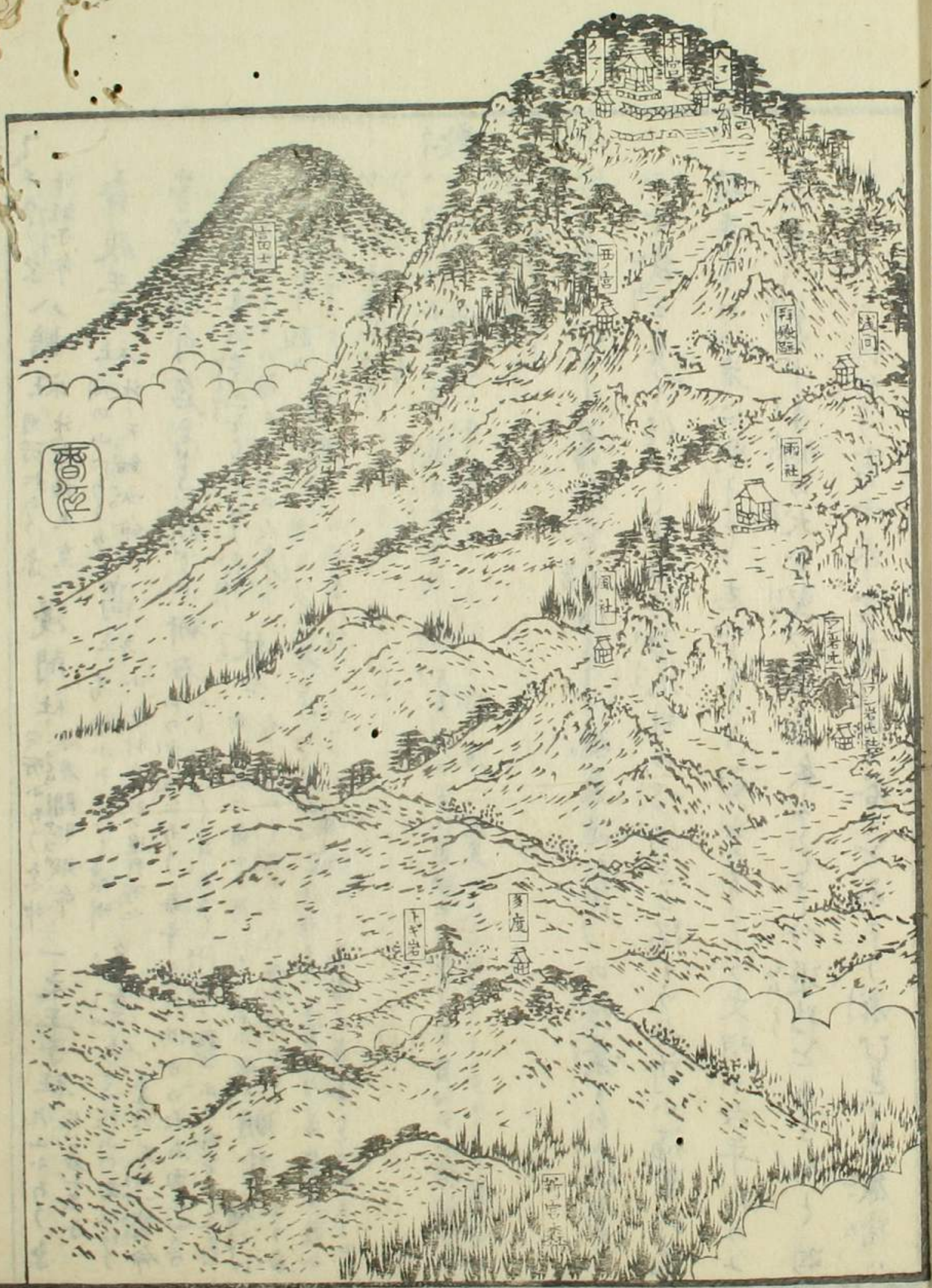
早稲田 大學 圖書館
 昭和 35. 1 28 發
 藏 書

嘉智部里	諸鏝神社	烏森天神社	永泉寺
樂田城跡	茶臼山	梶川弥三郎舊居	奈良志天神社
堀尾吉晴宅址	樂田夜陣の園	井出神社	八劔社
岩倉里	新溝古驛	虫藥保童散	神明大一宮
神明社	竜潭寺	山内對馬守一豊并妻室の説	生田橋
新溝證法寺	織田伊勢守城址	岩倉合戦	淺野里
青木川	吾鬘里	阿豆良神社	淺野里
淺野長政の傳	馬身塚	赤見國王天神社	大赤見城址
丹羽郷	爾波神社	宅美神社	浮野古戰場
阿具麻神社	鹽道神社	重吉古城	立野神社
穂積舊郷	生駒氏宅址	碑銘塚	八大竜王社
埴原氏宅址	久昌寺	般若寺	常觀寺
稻置神社	搦栗御厨	削栗神社	徳法寺

上郡駒	觀音寺	神明社	頼部竹箆
長幡寺	伊賀々原神社	高屋大杉	高屋御厨
八幡社	若宮八幡社	安良一ツ物	石枕里
小口神社	妙徳寺	小池氏宅址	徳林寺
前刀舊郷	前利神社	山名里	山那神社
黄泉寺	大豆途渡	顯宝寺	般若社
上沼下沼	栝野天神社	託美神社	覺王寺
木津杵	犬山	尊海僧正山名里小宿園	
乾峯城	城主歴代	針綱神社	同祭禮の園
名産忍冬酒	名産葯蕪	刀器	常滿寺
專念寺	鷄飼屋町	先聖寺	徳授寺
愛宕社	藥師寺	妙感寺	犬山燒陶器
花散澤	瑞泉寺	丈草道世故郷と去國	内田渡



香



本宮山

新集 登二官山
 懸梯扶杖上幽徑
 飛忽展旌裏靚雷
 走蕭駕雨師迎半壁
 臨神野中峰揖郡城
 流霞時可挹異井總
 難名步驟探佳境呼
 嘔接太清彩虹屏裡
 見藍水鏡中平欲到
 仙人掌儉然覺體輕

挺之

白集
 山
 日
 咬

八幡社 同所にあり 浅間社 同所にあり 一之王子社 丸山にあり

舞殿王子社 同の山にあり 高社 高根山にあり 多度社 高根山の南にあり

等々 里民年の夜山とて事お例 杖石 雨宮社の前ニケ所にあり 潮井 潮井にあり

拜殿跡 山姥に作 風穴 其深き事今も有り

鞍ヶ淵跡 本官山の麓安楽寺村にあり 小中武士 多し

山姥古事 むら 尚都とて 梶原源左衛門の故葉とて

國卒とて 者心剛とて 志やき 勇士とて 文明十六年秋の

うは月小 多し 何の犬とて 実つて 是ら 矢をむき 追物とて

黒川 小 のり 富士本宮 云 凡そ 谷とて あり 求むとて 庶猪

とて 孤鬼 に もさふ 獲り て 本官の 峯 近くとて

元 は 酒 と ひ つ け れ 怪 と する 狼 の 中 に あり

犬 と あり 大女 縁 の 髪 と あり 梳 り 居 り 新 菰 思 つ ち

の 水 源 の あり 人 跡 絶 て 所 に あり 山 姥 住 み 常 と 呼 ぶ け

の 中 指 山 名 の あり 矢 つ け ひ け り 忽 ち 灯 消 け

故 と あり や ま げ も あり 彼 者 の 行 方 あり 成 り 新 菰 も

忙 然 とて 前後 と あり 大 樹 の り に あり 待 け る

や 横 た け れ あり け し け ば 拜 殿 あり 血 筋 とて 尋 ひ け

別 の 方 へ あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

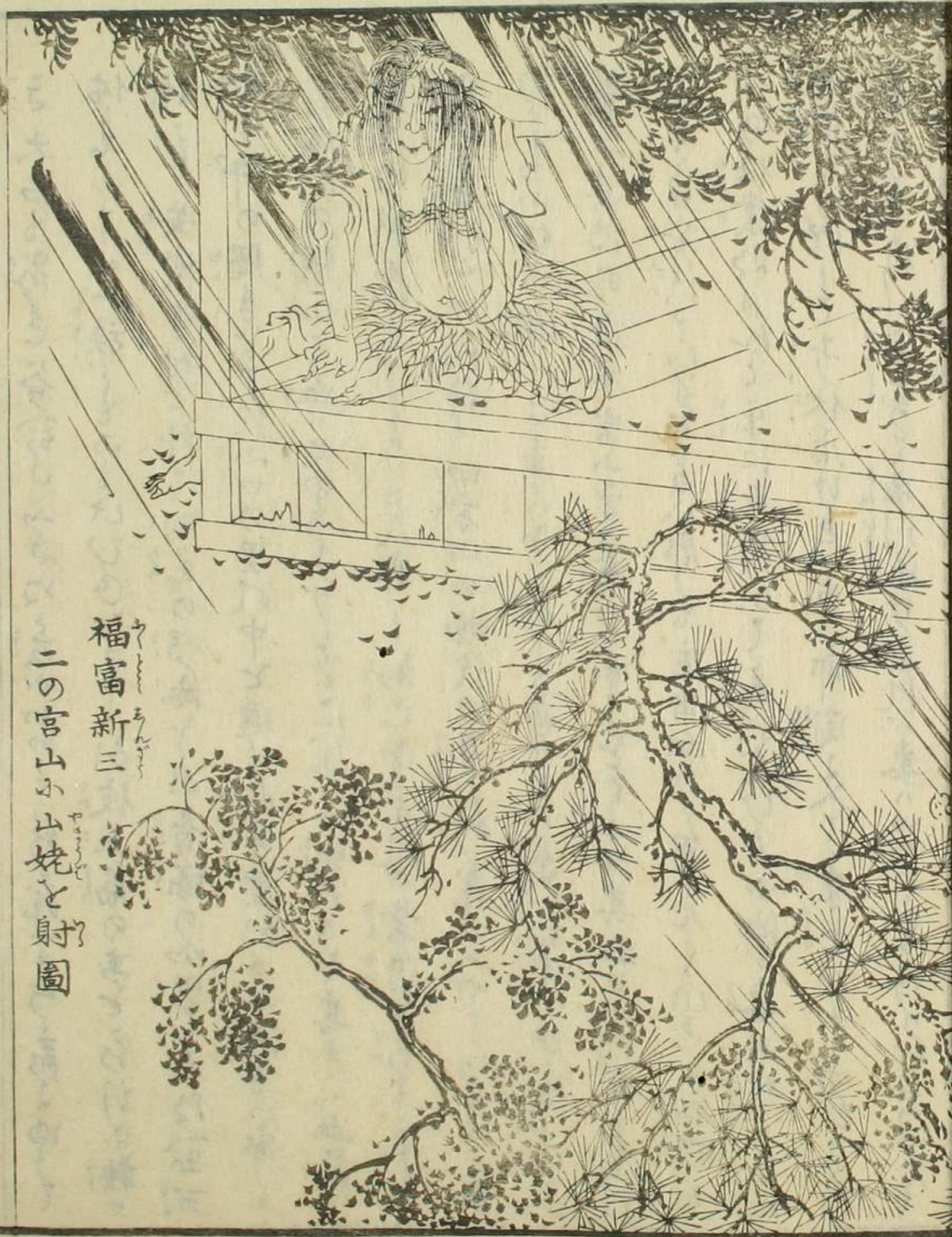
あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり

あり あり あり あり あり あり あり あり あり あり



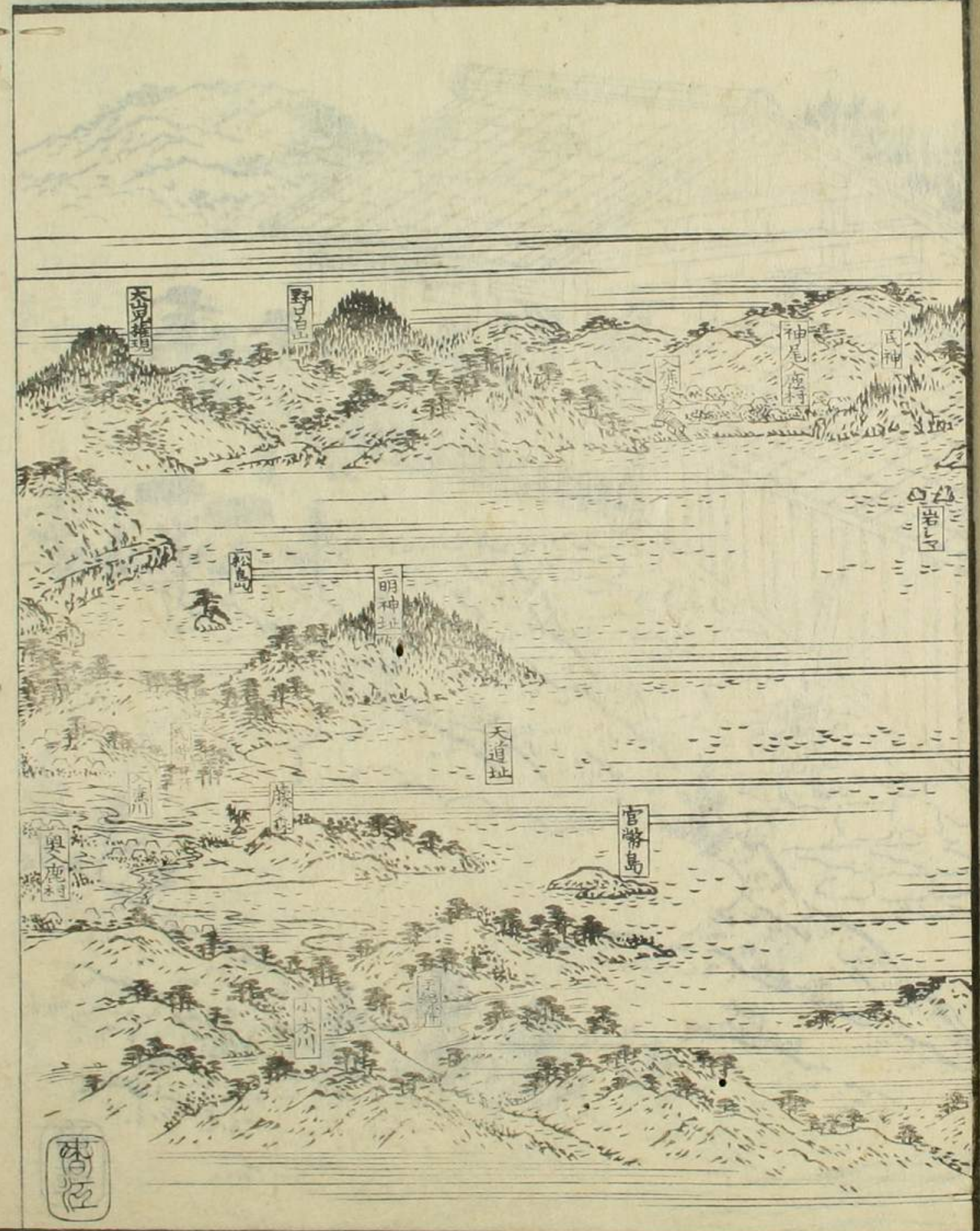
福富新三
二の宮山小山姥と射圖



高

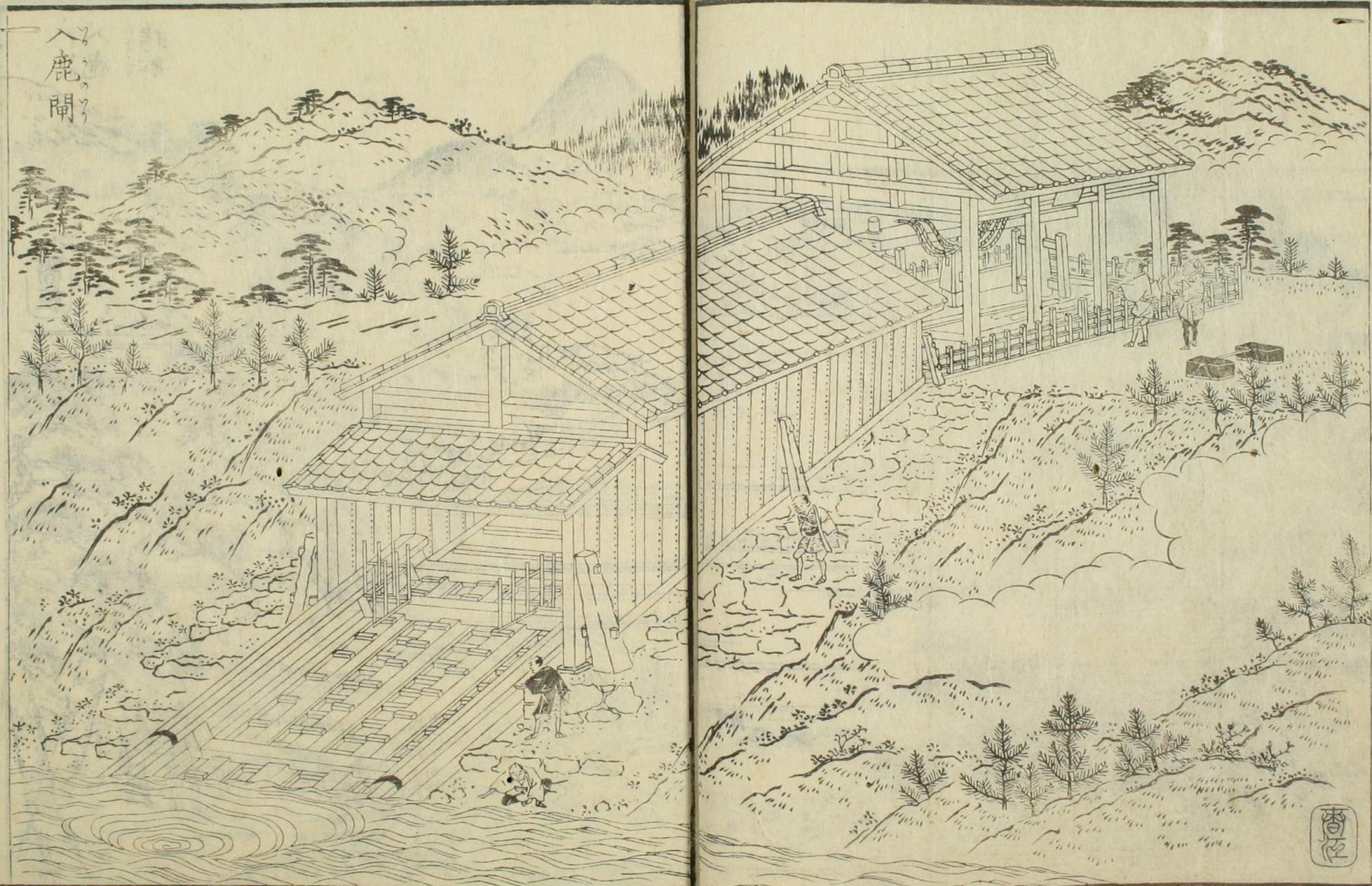
入鹿大池

縱橫三里許
此地冠一州
久旱終無涸
引得幾村秋
香實

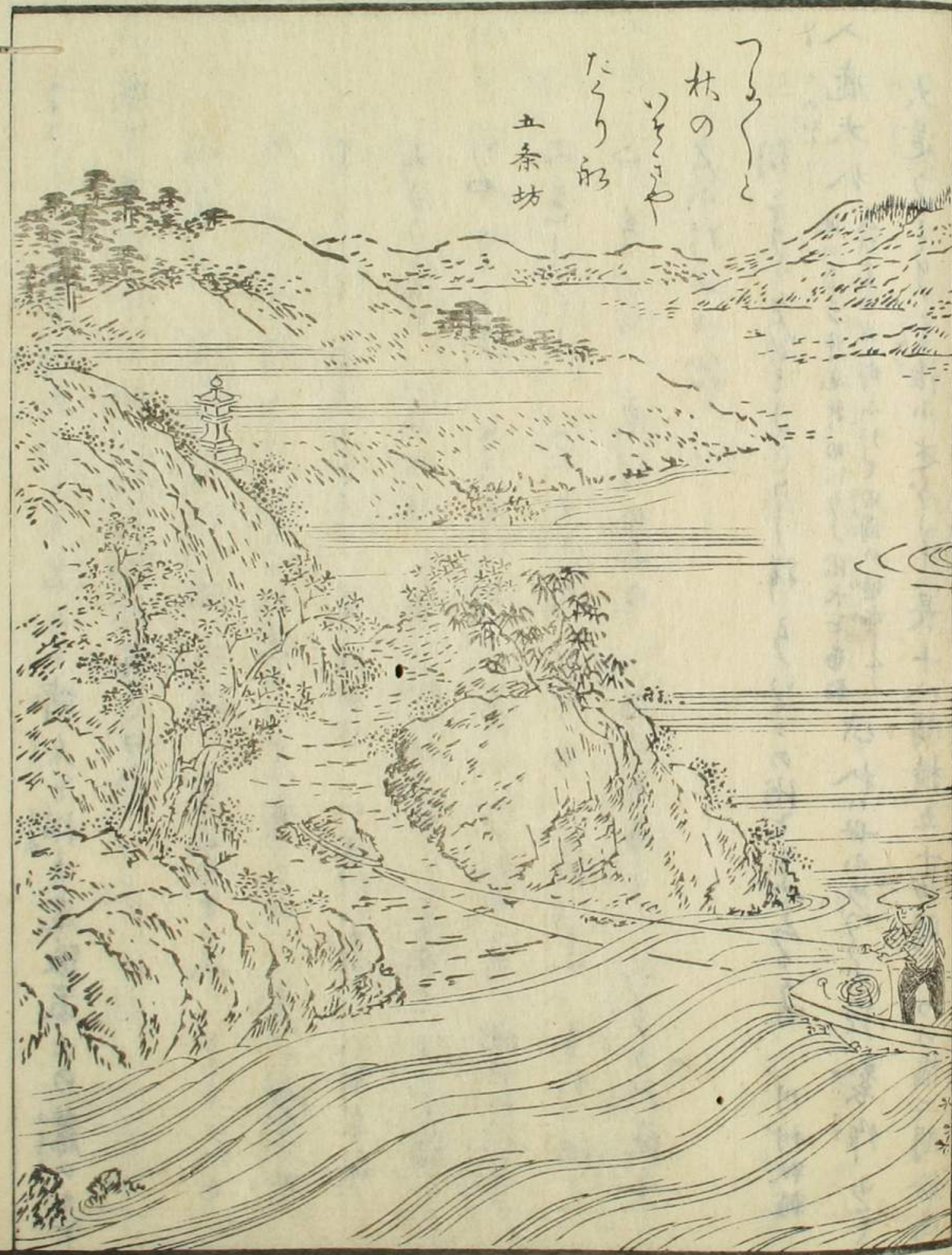


香實

入鹿間



香



林の
 ところ
 たぐり
 船
 五奈坊



入鹿の
 拷船

香江

竈石切

長防寺の山産する石
其質粗くして器物小物
小石をたれは石工と業
とす者多くわけて常山入
石燈籠手水鉢其餘石の細工
とてをたれは石工と業
谷門の木ノ葉石は石工の者
殊小石をせり

清水
交禮



光無双の佳境あり凡擬富士ハ諸ふ小ありとども皆其形よりて
名付ふふと此尾張富士のそへたふありて近江の土と後河
小運びて湖と富士山とを遠くより時控支の神此地にて一簣
と覆りていふが則此山とありていふ傳はれ彼後河の山
也同ト土石なりとぞ

富士淺間社

近世高田與清が著す國鎮記とてその小波河の富士山
とてその諸ふの擬富士と奉りて陸奥富士 薩摩富士
都富士 有馬富士 伊豆富士 八丈富士 近江富士 南都富士 筑紫富士 豊後富士 鎌倉富士 播磨富
士 讃岐富士 安藝小富士 志津川富士等とぞいふは尾張富士といふて書淺しけむ
富士淺間社 尾張富士の峯にあり本社祭神木花開耶姬命左右の金剛界社胎藏界社等
あり其下小波河富士八葉小擬熊野社神明社三島社鹿島社日吉社白
山社伊豆社ホとある夫より麓まで本社社初めて金岩社日神社中宮社
八幡社三輪社山王社辨財天社ホたりは竹古跡多し園土小蛇て居候とぞ
新宮とぞ 例祭 四月初申日六月朔日九月十五日十月初申日之内六月初日ハ時ハ大祭
りりハ火をふくけり花やうにやてみまが嶽の大文字小社御より望朝日ハ別當修験
出生り後任後摩行あり終りて近より馬と鞍又本社ハ大湯と奉納して祈
とわらふ年ありていふ 別當大嚴院 長来山富光寺とぞ 真言宗犬山薬師寺ホ
つとより本寺 修験 常昌院宝藏院泉正院千手院金藏院の五坊あり
茶所の木像 同村小ありて金山池北洞池辨財天池とぞ波河の富士山頂の湖水擬て
富士三ツ池 富士池とよみ河原の支邑の地ハ彼波河の正とていふ各ありとぞ

善師野驛

名古屋よりある波河の宿驛とて小波河あり土田宿とて馬籠あり
此地ハ栗根ホの黒樹村ホ多きを頭とて大樹ありて其の
穀ハ一ツの穴ありて化表に異なりむりハ多の啄来とて其生とていふ
されば鳥養榎とて名をとりて毎年貢納ありと其木枯て今ハ止とぞ
信美 二山 凌 險 來 張 城 郊 外 望 悠 哉 忽 伸 連 日 崎 嘔
思 渺々 苗 田 万 井 開

鷲岩箕岩

同村街道の側あり共ハ飛ちとて名づ
行人状とてありて寺記とぞ
護應山清水寺 同村あり臨濟宗美濃
濃國上加納瑞畫寺ホ
寺傳小ありあちハ延暦廿四年坂上田
村麿の建立中興開山ハ悟溪和尚ありて其後寛永廿年僧空屋の再
建あり○本尊 釈迦 聖徳太子作の馬頭観音と安置波河山三十三観音
本像 觀音堂 一所ありて田村麿の寄附也都清水寺とぞ日本
田村麿塚 坊内ありて又古室ハ田村麿の画像あり

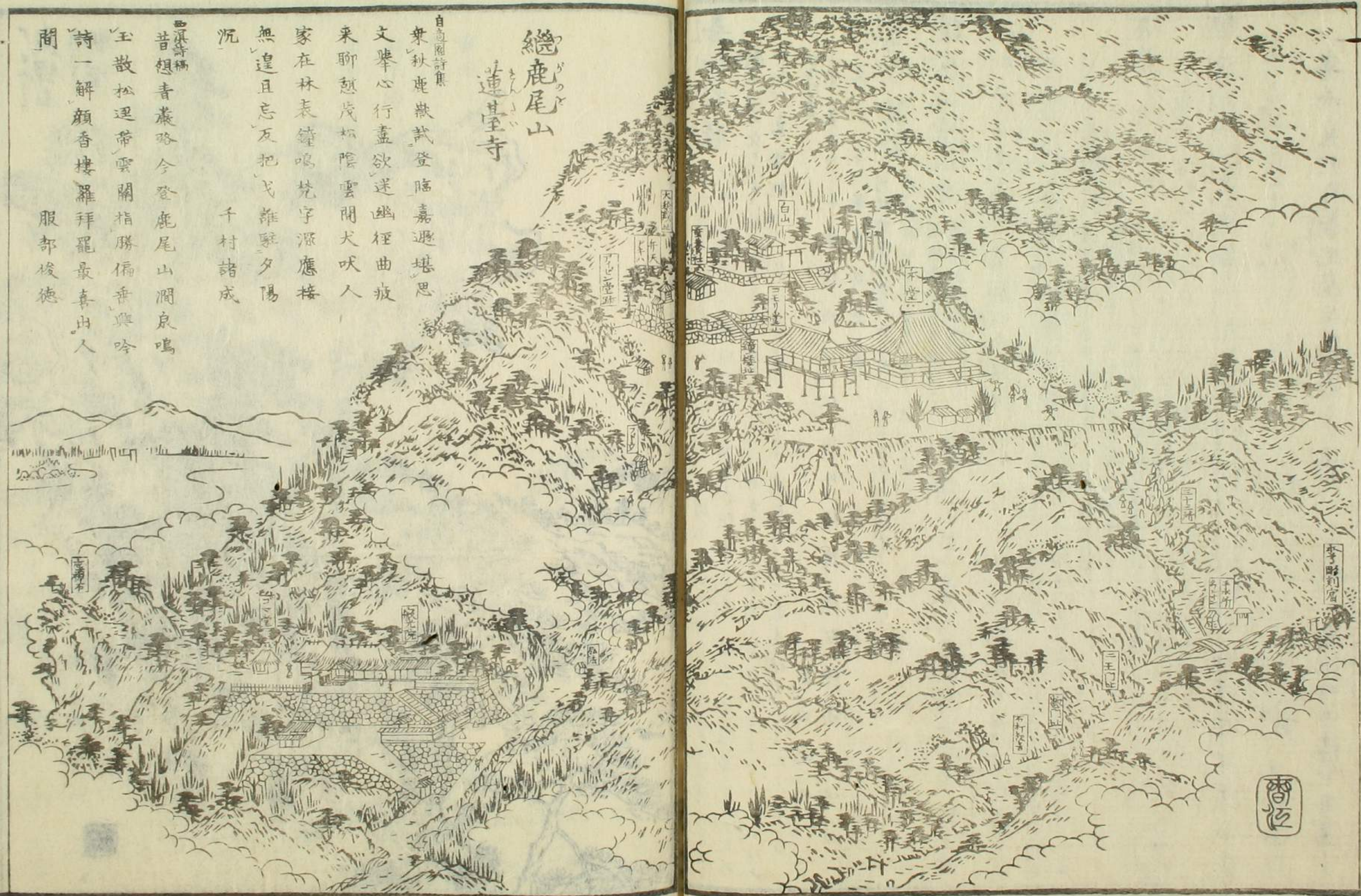
福聚山禪徳寺

同村あり臨濟宗美濃國可兒郡石原村真禪寺ホあちハ文明六甲午
年妙心寺景川和尚名宗隆寺江原派の法嗣の創建ありて其後十年真禪寺
五世説道和尚中興して開基ハ田村前田万五郎あり坊内ハ毘沙門堂庚申堂あり
繼鹿尾山八葉蓮臺寺寂光院 繼鹿尾村あり真言宗 白雉年中道昭和
尚の開基あり 和尙ハ白雉四年夏五月遣唐使小山上吉長丹寺ホ 其後養老
年中天竺の善先畏三藏あふ海より自刻の阿弥陀の像と安置し

總鹿尾山
蓮臺寺

自高麗詩集
 乘秋遊嶽試登臨嘉遯堪思
 文舉心行盡欲迷幽徑曲疲
 采聊越茂松陰雲開犬吠人
 家在林表鐘鳴梵宇深應接
 無違且忘反把戈誰駭夕陽
 沉
 千村諸成

西漢詩集
 昔想青巖路今登鹿尾山澗泉鳴
 玉散松運帶雲關指勝偏香與吟
 詩一解顏香樓羅拜罷最喜出人
 間
 服却後德



座禪石
眺望



雲峰屹々石巖々
大士堂高小補陀
眼底獲江秋一碧
渾舟點破夕陽波
和田詹齋

峯山あり麻れ
徳屋の山よき
きうくえにやぐし
延次山のみ
田雀丸



尚玉鬼門の徳護とせし美場より抑當寺の由来と尋ふ南郊
 下野村小山嶺と業とせし者ありて常に此山中と狩歩ゆり或日
 朝より夕まで得ずてたゞむれり谷間より川の藤涌り出けしバ
 うんたぐり射るけりて其に其鹿の尾より光明やくやく照る
 やさけり彼者よりその思いとありてしるるは千手観音の灵像
 少くともありて終に尚山小安置し。繼鹿尾山と号けり今も前坂の
 岩小鹿の足跡くびくびあり。當ちハ古杉老松蒼蒼として閑寂
 云隠の古淨刹より中にも座禪石より岐種川と見下しの光景
 籠堂より西南の眺望眼界蒼茫として山水の美華端の及ぶ所
 小ありて

本尊

千手観音ハ南國三十三觀音の一所ありて出現の岩窟裏坂の中央あり相傳へ

寺宝

茲竟大所所おの香炉大日如来不動

日本武尊化現して遊りて其處に其時其時
 といふ事難の宮とありの旧記ありて
 の土菅谷氏より寄附の甲賀ハ松平右衛門太丈正綱着料の古巻より其外寺領後田信長公の
 朱印 國祖君御黒印小母五郎左衛門長秀柴田氏所長勝家依り市と傳の流文救通又

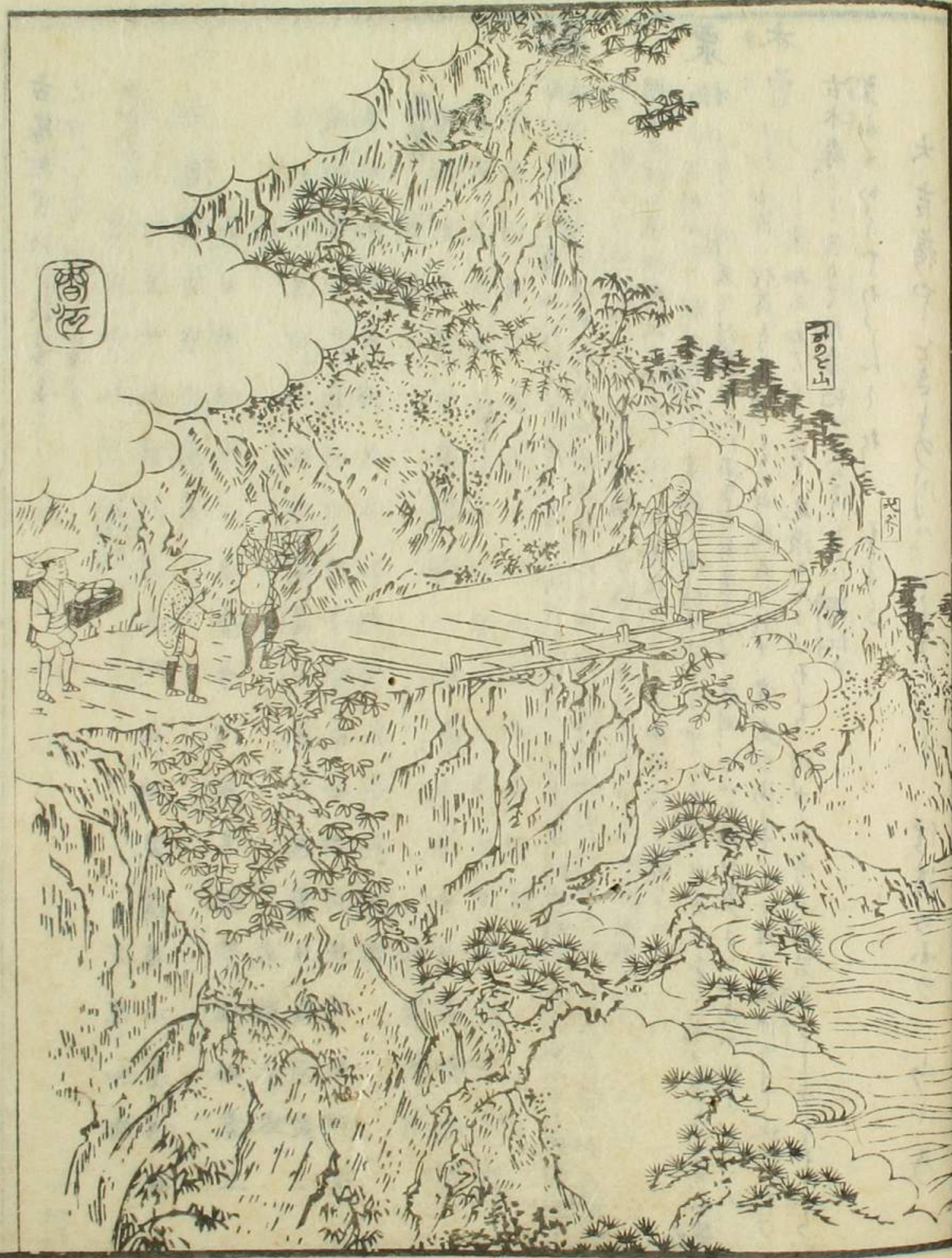
鷲岩
箕岩

未一水

美新

思文





香

栗山

山

栗山棧

見わかれハ

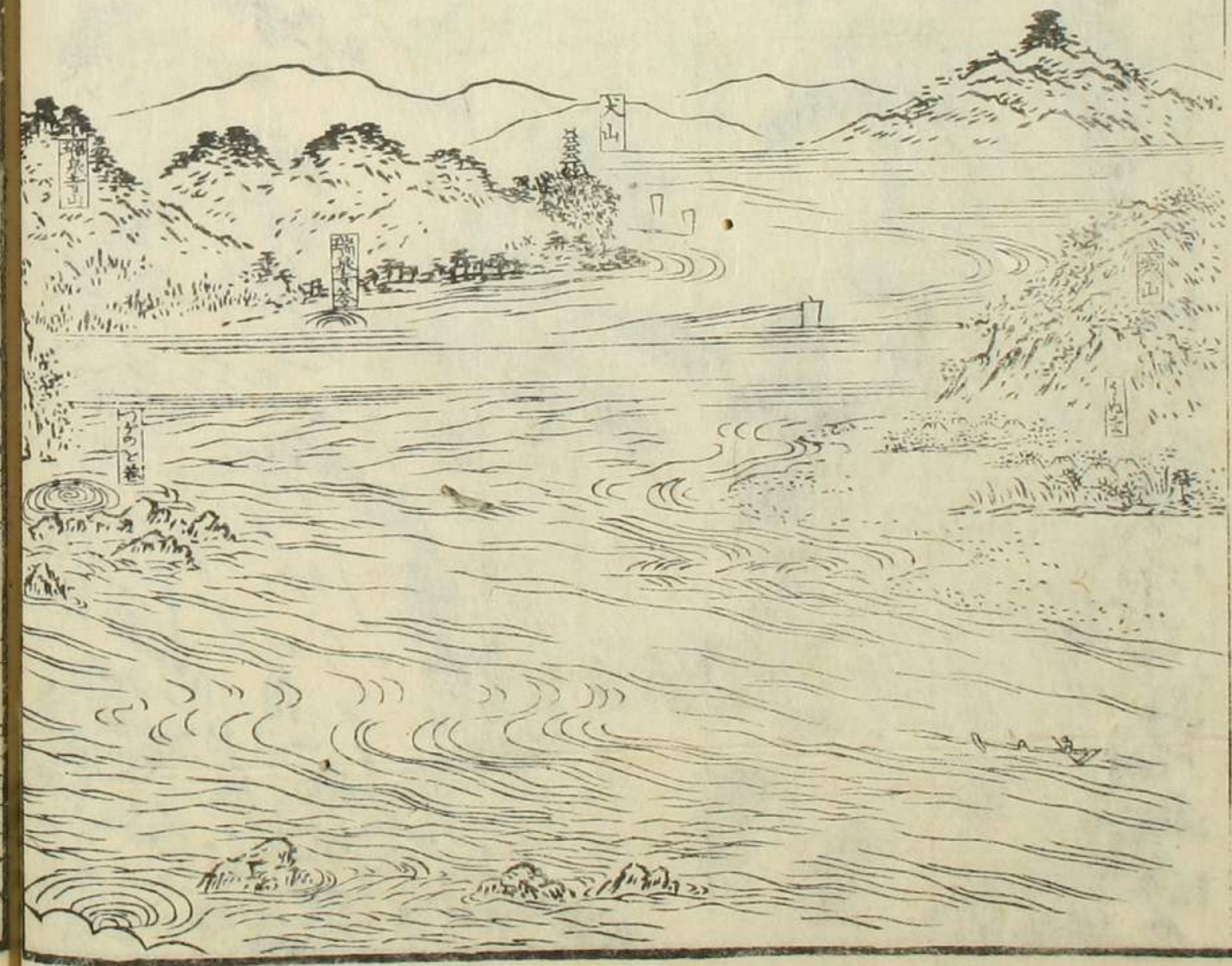
ついでとらへら

見あはせハ

うめさけし侍

山歌

和雄

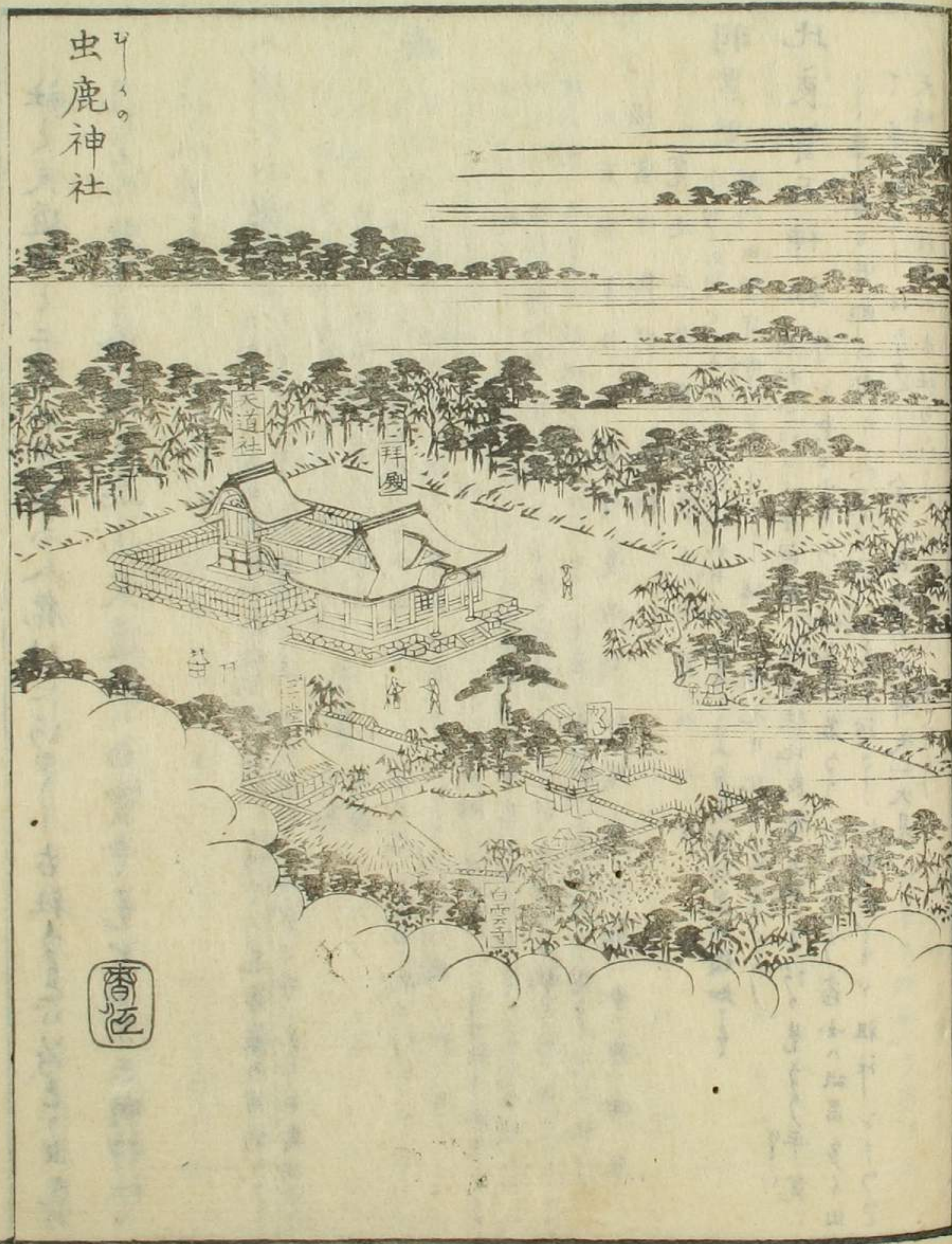


天山

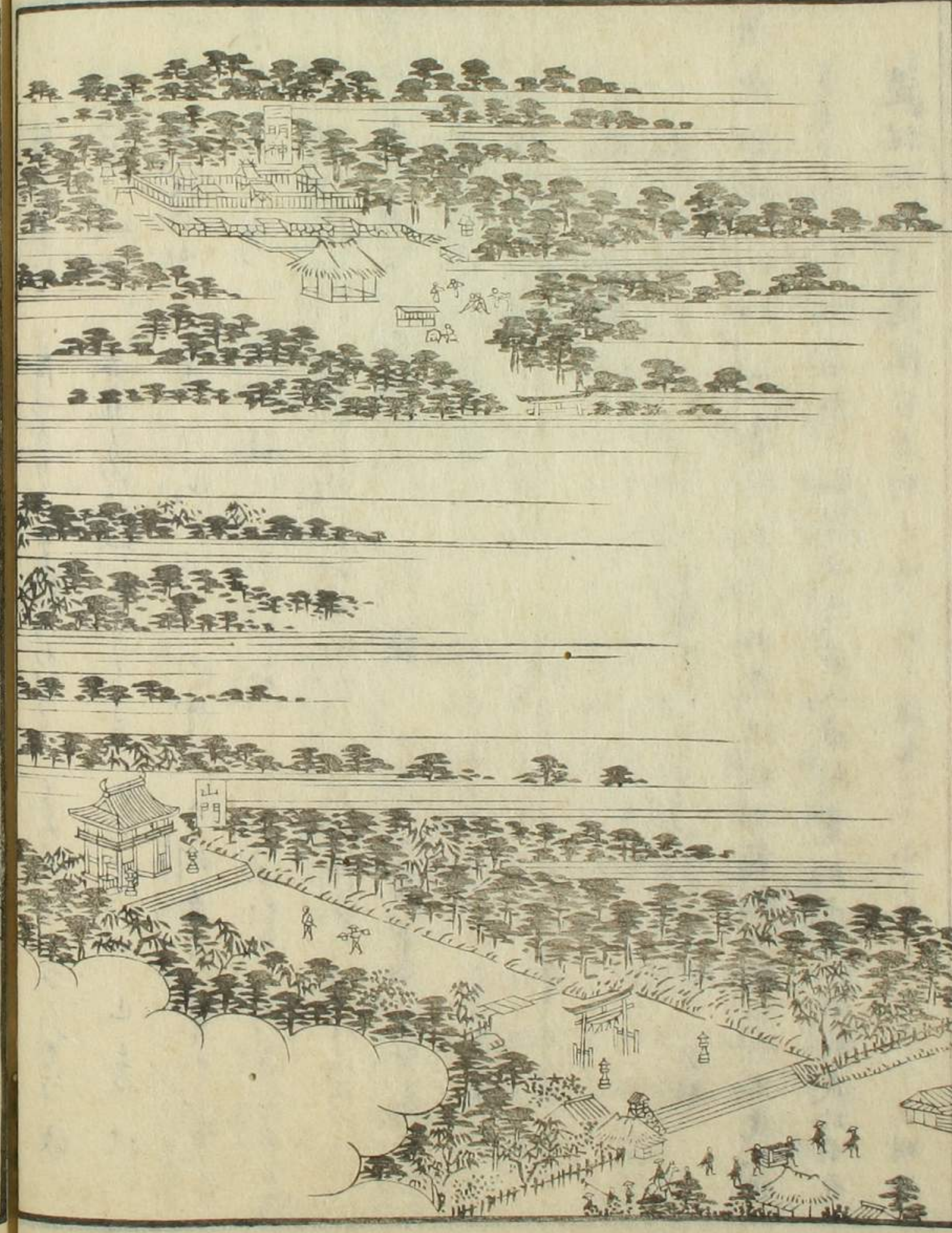
山

山

虫鹿神社



香



社と天道社と二所あり共小入鹿村に在り古社なりと云ふ鹿の
荘名と称せし津津うらべ天道社ハ白雲寺と云ひ三明神社ハ
社人司くふ

入鹿山白雲寺

同所あり天台宗也田密藏院末子信小入往昔行基菩薩の所創り
と云ふ十一年丙午九月再建して天道宮の社勢と司くふ中央開山白
雲比丘の名とて寺号とせり寛永十年
本尊 不動
木像

橋爪妖火

傳へしに橋爪村の農民勸五郎といふ者或年の夏田の水と引んて青木川
の邊に妖火と見えたり其時年向も四百餘年の星宮と傳へし其の妖火の
徳授寺の現任大陽和尚一偈と賦して母子が退福と管ミられ其頃より妖火
彼和尚の作り鎮妖火頌并序文ありも序長ければ略し偈のいと九記す
四百強年母子魂隱憂相結託橋村江流今幸修眞
福當下路門甘露門
寛延三年歲在庚午八月廿二日

羽黒里

今羽黒村といふ寛正の頃開加井坊久喜といふ者尾州羽黒と領知して
蜷川出雲守掌りて蜷川親元日記に記す
比良賀天神社 同村あり本國帳小徒三位比良賀天神といはるる是より平亮ハ
一書春日井郡の部小入の邊にあり是は比良賀といはるるに陶ユドも組津と云ふ
て景教也社なるべし今ハ當村の氏神大一大見
大明神の社地小未社の記に記す

妙國山興禪寺

同村あり臨濟宗天瑞泉寺末高也ハ梶原茂助義景大旦那
と云ふありて寺号とせり則位牌 本尊 釈迦
木像
わして天正十六年戊子と云ふ

磨墨塚

同村あり梶原景季此に位に馬を磨り磨墨塚といはるる
源氏物語に附會の説あり高所小位を公の磨下梶原
源氏物語に同松平代々の塚跡ありをれらと云ふ

羽黒川

同村あり水原ハ本官山の北より出川中流といふも昔ハ石
の多き河系なりと云ふ

羽黒古城

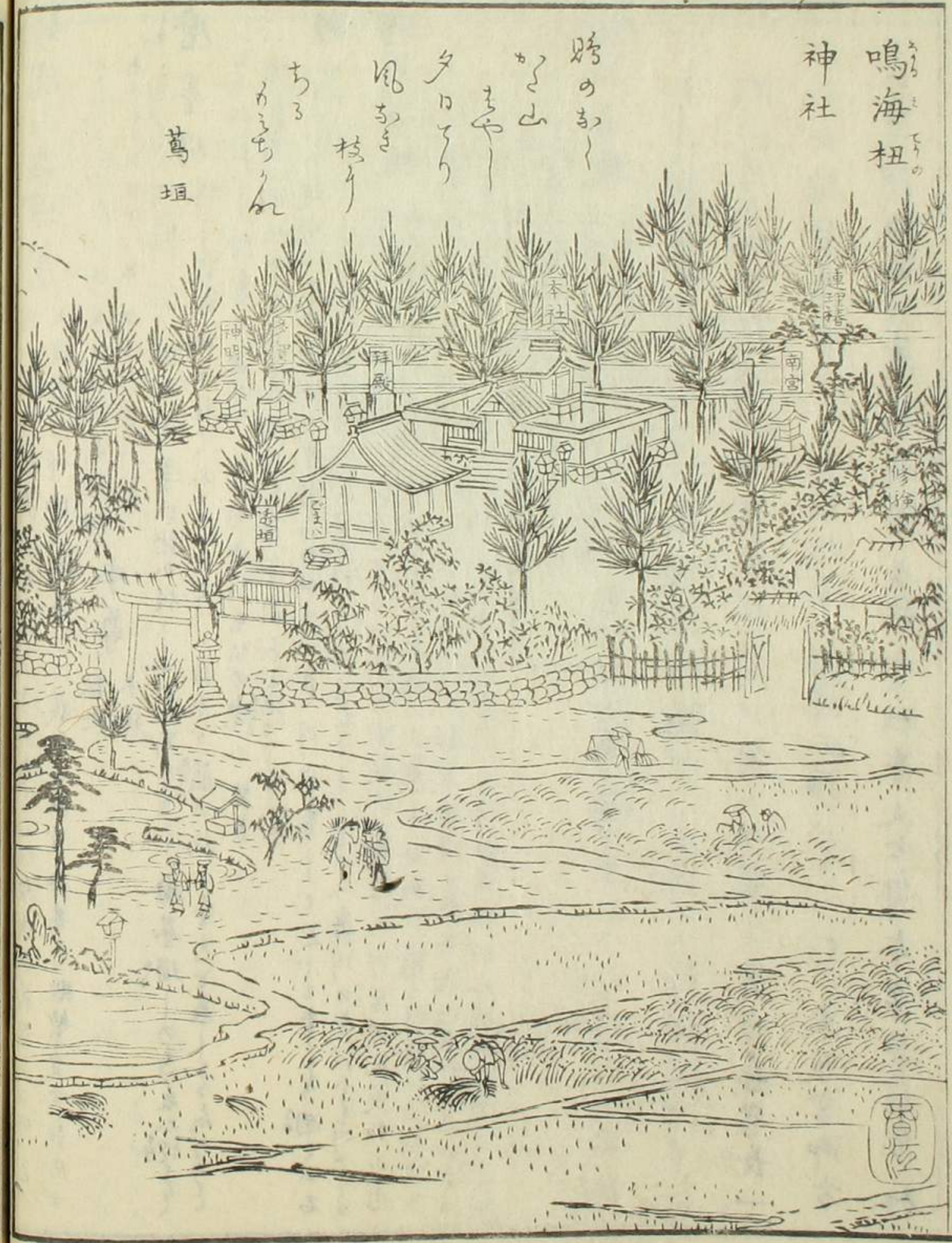
同村あり太閤記に卯月十四日羽黒の古城津普請仕仰付堀尾茂助山内
猪右衛門尉伊左衛門助入屋と小牧山小對向城十餘ヶ所城と相定め
万捷の糸目物に記す付同廿九日津馬と納り山云稲乘通邦が参考長久手記云十四日
秀吉羽黒の舊墨と修堀尾茂助吉晴山内伊右衛門一豊伊左衛門助祐時に守り
又奈良高田城の山城と築き稲乘右京亮
貞通長谷川辰五郎秀一と云ふ

羽黒合戦

同所あり八幡林の古戰場 天正十二年秀吉公と信雄公と牟耆
起上合戦小及びい 東照宮信雄と云ふけて高小と云ふ
ぬ三月十七日太閤方の軍將長治の魚山の塚と表武藏守長一
三子修騎と卒して羽黒村の八幡林小陣よりこれ 東照宮津方
の軍將酒井左衛門尉貞平美作守松平又七郎本多豊後守松

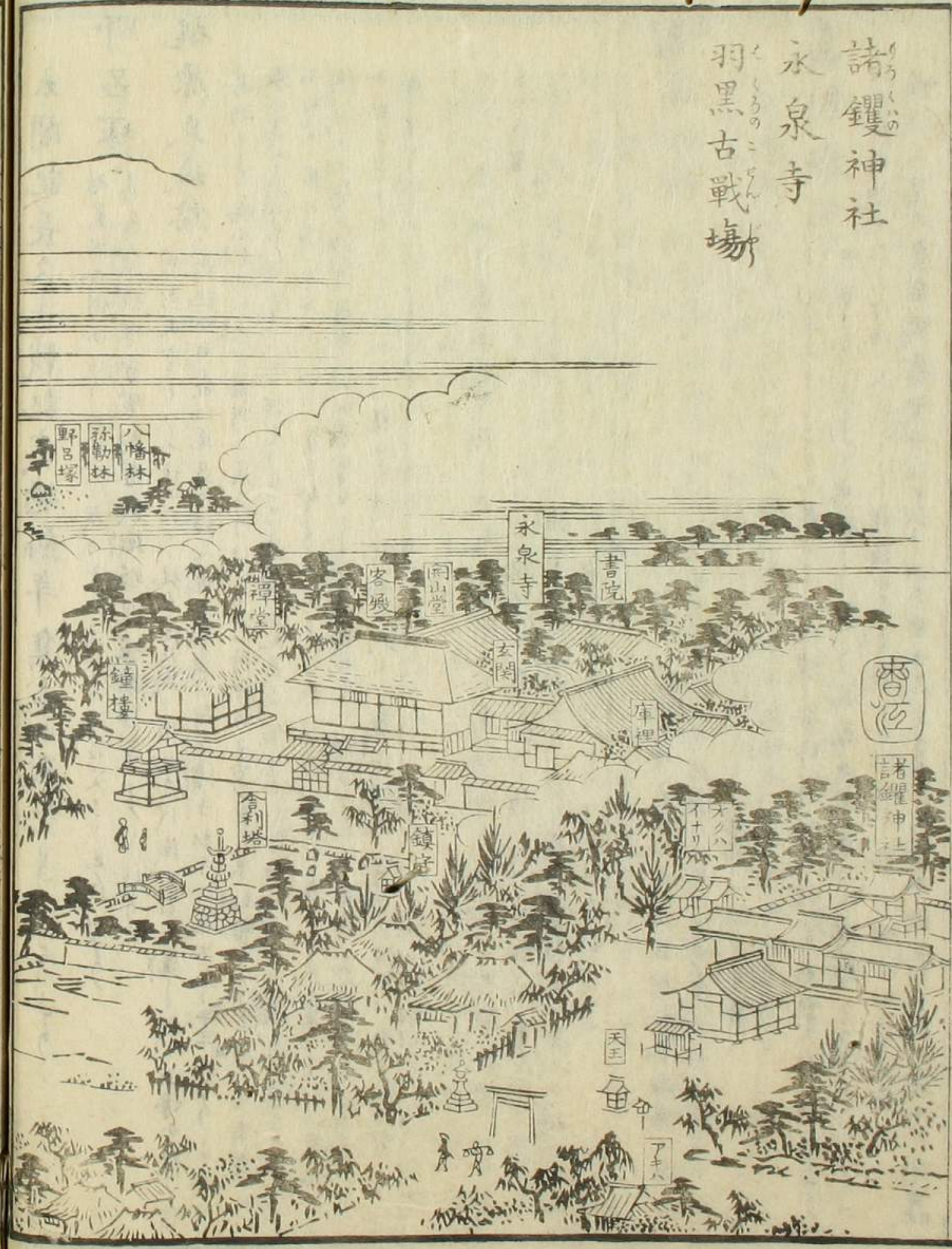
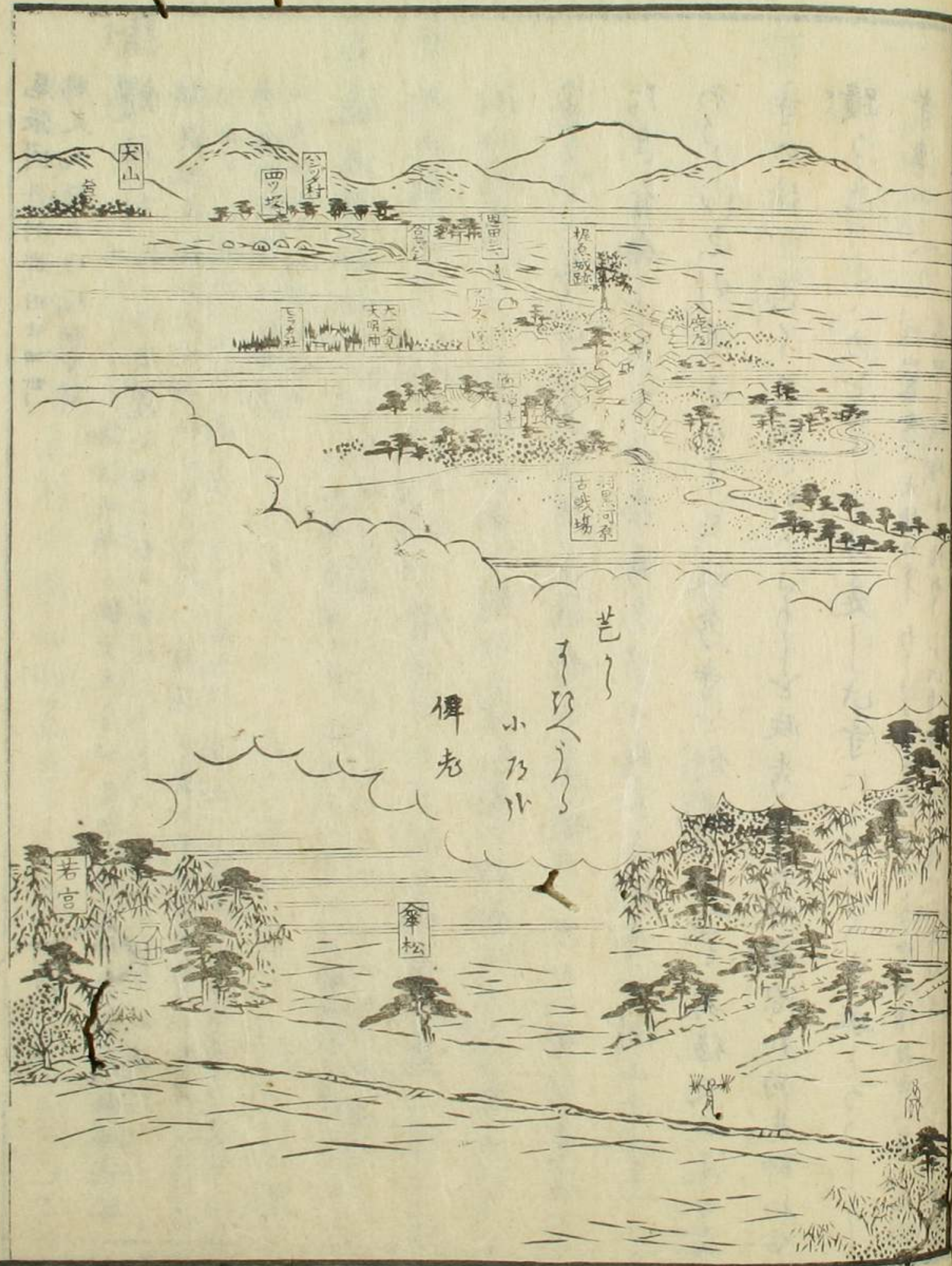


毛筆
 寂々
 夕の
 暮し
 沙鷗
 風のつらね
 傳ひた
 あり
 昔は
 如傳



鳴海
 神社
 賜のま
 夕のつらね
 風ささ
 ちる
 あり
 葛垣

高橋



諸鐙神社
永泉寺
羽黒古戦場

尾張国丹羽郡田廿四町
賜夫人從三位橘朝臣諱

諸

鑲神社

田村小町にて諏訪明神と称次延喜神名式小丹羽郡鑲神社本國帳小
從三位諸鑲天神とあり官社なり為社に天文十三年の棟札ありて奉

鎮諸歛座諏訪大明神社とありて諸鑲と樂田の古名なりや小町に人もの
樂田とつて村名ハ天文以前よりありて名これ諸嶽ハ只此の小名なり
神健南方命とて例祭
七月廿七日祠官河村氏

烏森天神社

田村小町本國帳集説小從三位烏社天神柳庄樂田村とありて
本國帳元龜本と為社とあり貞治本に烏社小作と共小烏の誤字

景德山永泉寺

田村小町臨濟宗
京都妙心寺末
當寺ハ天文元壬辰年の建立野呂惟

久の関基りて泰秀和尚と開山と次和尚ハ信長公と交り厚く
當寺も来りたり其に平政秀の菩提のあり小一寺と建之
たさ旨命よりいり泰秀中ける我子源彦と開山と
わつしゆ名則其意小まじ改秀寺と創建し之に其後天文年中
寺の諸堂悉く兵火のありと改秀寺五世徹源和尚先師の古
蹟とてカと云く再建し此寺にありて中興と云く
寺傳ハ
開山泰秀ハ大徳の才ありわつしゆに諸あり雲水僧數百人集り居
其中ニ琉球の信ありは信徳のあり彼地ニ兵禪寺と云く是

傘松

田村小町古松ありこれ名付あり
本尊 阿彌陀 湖山水 境内の池とあり

樂田城址

田村小町織田陣の遺蹟 尉久永築て居候す其後津田下野守信清
と攻取り持城と改永禄年中信長公信清と退ひ坂井右近政尚守り
其後久永軍の所秀吉公の陣營とあり

太閤記小羽柴統前守秀吉尾州表出勢

の趣ハ津川云蕃允岡田長門守浅井田宮丸秀吉のしり小謀
と一事と不便と思ひ其勢と散せんがなり先勢濃州垂井
赤坂巢股も小着陣しけは後陣いまま醍醐山科宇治勢多也
小元満りて大坂の御一左右と待居り前後其勢十二万五千の
着到しとて先秀吉卿三月廿日大坂とありて宇治瀬田を
抄し勢も次第ふふなり廿三日四日ハ先勢犬山の下大豆戸の渡と
越天山五郎丸也に陣取ら日と逐て後陣の勢あまきあつひ尺
地も更なるなり所ハ秀吉卿廿七日午刻川と越すひ
犬山の城不入り未刻ハ樂田羽尾也まで諸大名より召つ



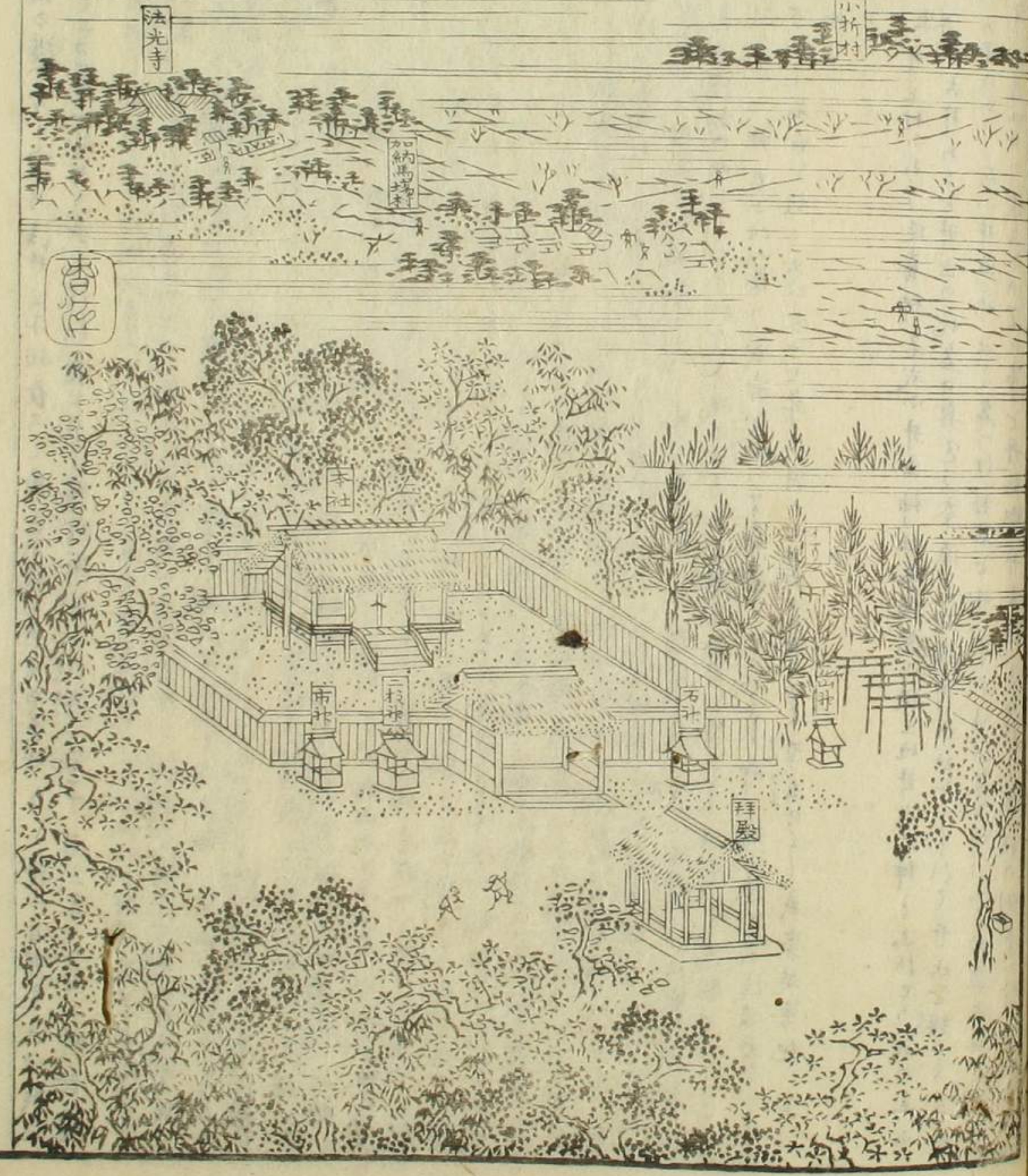
秀吉公の軍勢
樂田村の野陣の圖

神明太一宮
 井出神社
 銘酒千代雀
 千代もつは酒造家
 大のやと製と
 お山の葱茶酒
 大蛇の保命は
 ちかおとすは
 年々
 玉君もすり又
 府下及び心を
 以て祈るは
 て人の知れぬ



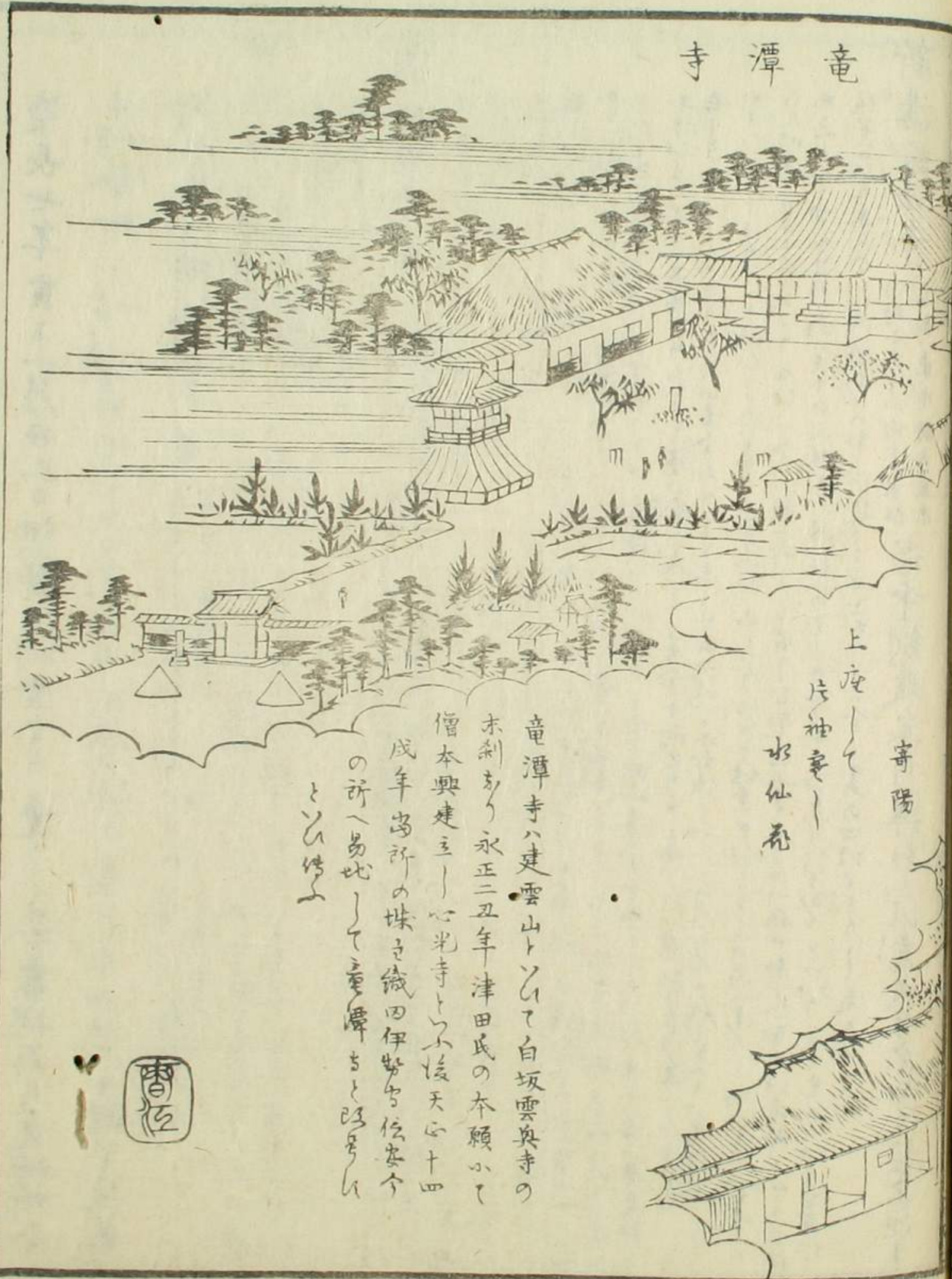
馬士の
 妙小法師
 如翠

うこそ
 代の
 たりり
 いそくに
 たすも
 寺
 正次



香

竜潭寺



竜潭寺ハ建雲山トシテ白坂雲興寺の
末利あり永正二丑年津田氏の本願にて
僧本興建主一ハ光寺トシテ天仁十四
成年出所ハ珠之織田伊勢守伝安介
の所ハ易比一トシテ竜潭寺ト改号シ
トシ修ス

上座一々
片袖堂一
水仙花



岩倉里
新溝證法寺



虫薬保童散

尚所山川氏より出そ
一子相傳の奇薬として
名高し山内と法洲の
善治丸と八葉店あり法
一トシテ學不知妙薬あり

東中
さくろの
さくろの



岩倉合戰



新編師 豐原堂主 寫

草木萬葉
 輕春天秋
 冬露登堂
 消殘何采
 成人損閣
 胸急々豚
 飛入蚊服

右伊勢守
 信安自讀

事なしく及びいふ永禄元年七月十二日信長二千餘騎と率て
岩倉の陣と改むし浮世にありて犬山より織田十郎左馬信清
千騎より馳加り都合三千餘騎を成りたる岩倉城よりも
三千餘騎より合戦次信長の下知りて河津地と斜小
廻り透るるちおつけしに敵方横池小突まられど信長と
まぢんと其虚と付て去るに馬中条小一郎等何事も咄と
とわげ一交の突てかりたるに岩倉勢なかり得ず城際まで引
退く信長と信清は南の小川を以て岩倉へ追進む城方の軍將
是とんく犬山勢はつづき千騎ありて討たれしに三千
餘騎一交の小川より犬山方の土倉四郎兵衛和田新助は本
左吉生の勝助中島主水正猪子二馬の等究竟の兵士浮世
川とち銭一銭にたる岩倉方のあゆたる允かりて犬山の士より
一が近年岩倉小属しけるか今日の合戦と下知りてわりけしと

河原の浦を以て引組て勝負を決せむと陰謀を以て組て上せし
之びるる後小前田が首を搦てゆりりかくて犬山より信長公引返りて
敵大勢より輕微ありて早馬安浪と打てり上りて又引返り馬廻りをして
又一が此合戦に究竟の兵共九百餘討たて信長公は清原へ陣取り
この次の年又岩倉へ押寄せ二ヶ月まじりて攻られざるに敵討ひしとや
思ひらん珠明の言にありたりと織田軍記織田真紀等に記す也

生田橋 大山寺村と本日井郡徳重村の間岩倉街及生田川に架かる橋あり此川の下流渡津一色村の
ありて又日叙を以て其漢人もあらず水入り船を拖て出る後輕抱とて言ふ也

青木川 佐野川の下流源古本津より分る小山村天ノ村の石を流せしむ村の下に浮世川と岩倉の
五市坊村と生田川あり

吾鬢里 七歳而不語傍問郡無能言之乃後皇右養有神告曰吾多具國之神名曰阿麻乃弥加都此
女吾未得祝若為吾充祝人皇子能言亦是壽考帝ト人覓神者日置部等祖建岡君ト食即遣覓神時
建岡君到美濃国花鹿山攀賢木枝造綬誓曰吾綬落處必有此神綬去落於此間乃識有神因堅社由
社名里後人訛言阿豆良里と云ふり和名抄抄
丹羽郡吾鬢里本に誤り
吾鬢里村あり延喜神名式丹羽郡阿豆良神社本國帳に従一任吾鬢名神と云ふり社にて

阿豆良神社 今も從變大明神と稱ひ天鹽津日女命と云ふり社僧室昌寺
淺野里 張州府志に稻置庄とあるに誤りて淺野庄の本所あり康正二年造内裡段錢並國
役引付に壹貫六百文北野社領尾張國下淺野保段錢と云ふり信長公の事あり

我以同本代村少計免其為尾及又八郎 幸房二男也 依守之等 故為之初西之飯
三男清重 幸房三男也 幸房の里小 幸房の里小 幸房の里小 幸房の里小
我切なり 且其母 幸房の里小 幸房の里小 幸房の里小 幸房の里小
眼寺のり 且其母 幸房の里小 幸房の里小 幸房の里小 幸房の里小
又又本と 幸房の里小 幸房の里小 幸房の里小 幸房の里小
て吉村

立野神社

上野村小 延喜神名式 立野神社 本國 惟三位
立野天神 例 八月十四日

穂積舊郷

今穂積郷本村 和名抄 丹羽郡穂積

生駒氏宅地

小折村小 生駒氏宅地 廣立代の孫生駒氏 入清一統
の後 性院君小 幸房 國祖君小 幸房 長臣小 幸房 幸房の里小
月居士 幸房 幸房の里小 幸房の里小 幸房の里小 幸房の里小
幸房の里小 幸房の里小 幸房の里小 幸房の里小 幸房の里小

碑銘

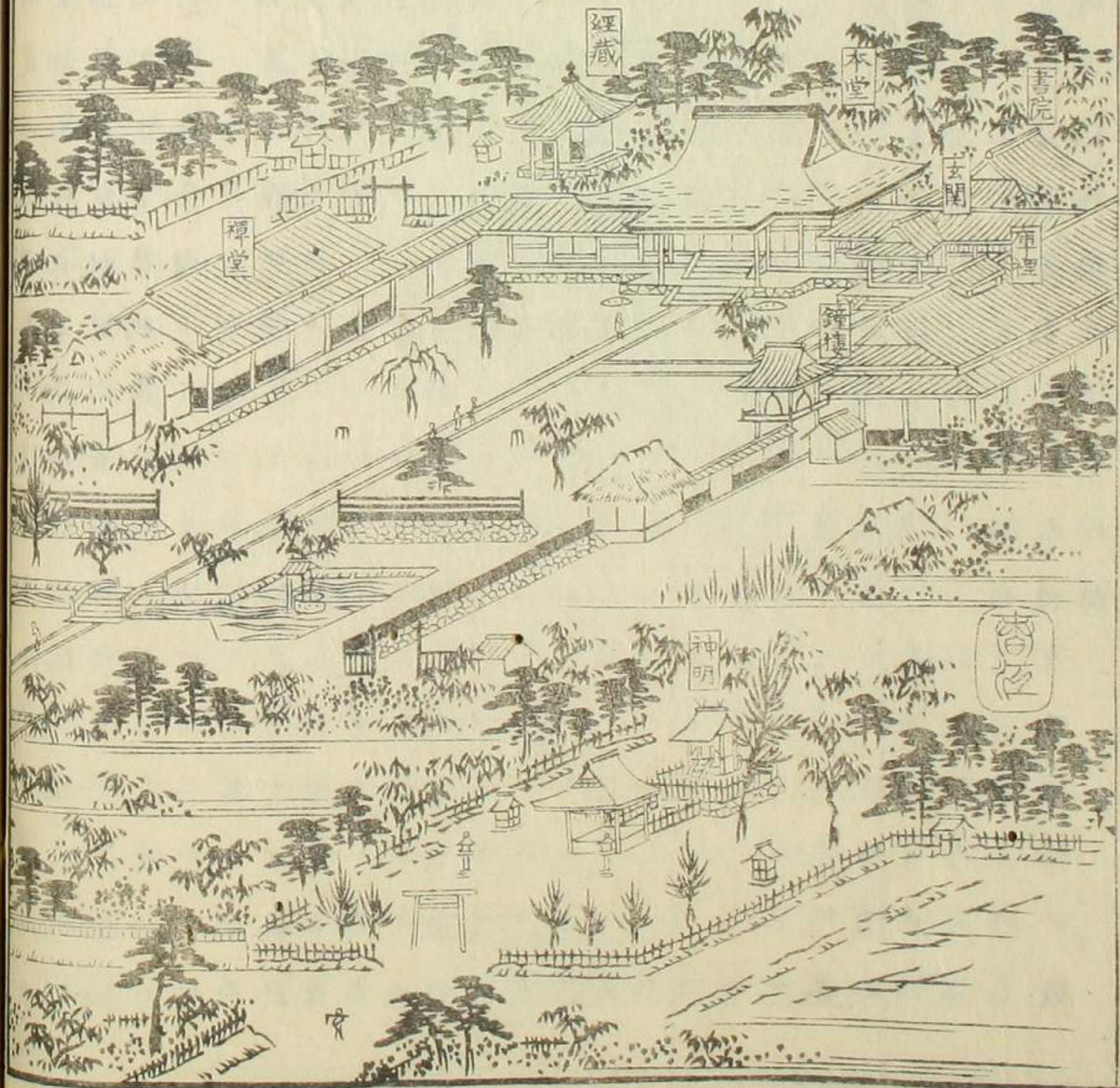
尾張河内並河魯山の文と 彫りしれ 天のまきと 彫りしれ 天のまきと
天のまきと 彫りしれ 天のまきと 彫りしれ 天のまきと 彫りしれ 天のまきと
天のまきと 彫りしれ 天のまきと 彫りしれ 天のまきと 彫りしれ 天のまきと

在昔忠仁公建山莊于和州生駒郷而其末流生駒村
居為進以生駒廣者利政其次藏人宗明八年右
左京進其次賀守國士秋大城信田信長則宗
有門生二男一相賀守國士秋大城信田信長則宗
衛女生二男一相賀守國士秋大城信田信長則宗
之臣信雄也其女嫁周郎源信康由是長則宗
大長亦信雄通不誦天正東照二年信雄與相國
家長亦信雄通不誦天正東照二年信雄與相國
吉有隙信雄通不誦天正東照二年信雄與相國
入尾州兵信雄通不誦天正東照二年信雄與相國
宅時家長兵信雄通不誦天正東照二年信雄與相國
利君豐年幼庶兄右近善長察視敵境而歸小牧榮
神議自折八村登富塚長視敵境而歸小牧榮
和議同折八村登富塚長視敵境而歸小牧榮
秀吉之命任關白豐臣秀次長視敵境而歸小牧榮
原之役利君一統屬左衛門大次郎從五位上慶長
年張國利君一統屬左衛門大次郎從五位上慶長
尾源公封于尾州利君一統屬左衛門大次郎從五位上慶長
言乃其子也今尾州利君一統屬左衛門大次郎從五位上慶長
者乃其子也今尾州利君一統屬左衛門大次郎從五位上慶長
為今嗣子也今尾州利君一統屬左衛門大次郎從五位上慶長
此古曰祖考之嘉名將正傳其子孫之系如後特選實利如
勝無祖考之嘉名將正傳其子孫之系如後特選實利如
先之嚮則祖考之嘉名將正傳其子孫之系如後特選實利如
者也鳴呼百世行詞既成且係之立而枝繁葉密猶於後
昆有期祝鳥詞既成且係之立而枝繁葉密猶於後

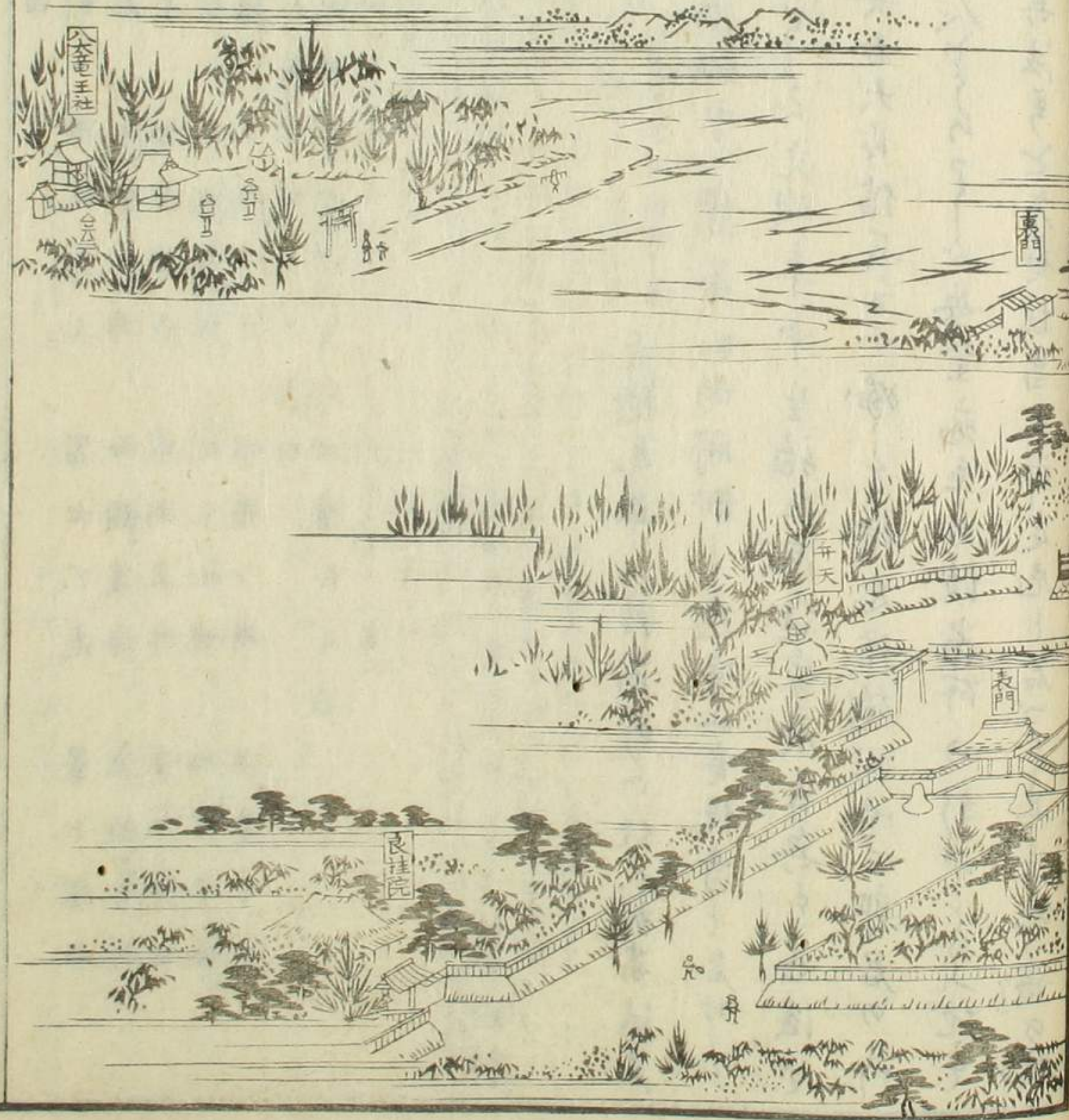
久昌寺

手書詩稿附錄
 一自聞清梵
 便知炎暑微
 雨添山色爽
 鳥送夏雲飛
 老衲珠無事
 浮生得所歸
 桔槔將動處
 晚坐足忘機

禹臣



八大竜王社



銘曰 小折之影 勝彼高丘 富士不遠 累々塚幽
 松林絶景 猶記昔遊 藤縣岩存 東指參州
 爰問信景 以祀武侯 矧又此境 李白憇休
 蠻服旗信 日照戈矛 耀榮一時 神君停鞞
 天拂旌旗 東武州學 壬戌二月 上旬 流譽千秋

八大竜王社

同村小あり創建の年月未詳
 成四月生約氏造宮の棟札あり例年八月十六日

墳原氏宅址

同村小あり墳原かたきり甲斐國の砂民より所領札とある小あり
 清次の古角並して居けりと伝へるや小ありと云ふは其の跡也

嫩桂山久昌寺

同村小あり曹洞宗
 名古松万松寺末

至徳元年八月尚所の任人林某法名

真觀等の本願より實峯和尚開創一慈雲山竜徳寺と名付が
 乱世小衰微せしむ文明年中生約左京進家廣年與と其後生
 約家宗の女右大臣信長と小娘と信忠信雄岡崎三郎君の御
 簾中と二人とありしが母堂病卒の後尚所の新地と云ふ地と
 茶毗し其法号と久菴桂昌大禪定尼と名づり其居地の嫩の桂

二株ありて久昌の法号と云ふと其夫人の香花の

場雄山和尚と云ふ中興と云ふ永祿九年山号寺号と改む

○本尊 叙迦の鎮守弁天社 運慶作至徳元 寺室 本堂の扁額及び聯の類も同
 筆より長刀一振むり実峯和尚座持り大蛇まうて勢げられ和名ひきりて切殺し
 けりといふも近年火災ありて傷損し中心の法小實峯和尚壇上按制
 地刀と云ふ 塔頭 良桂院 天正元年
 僧良桂の建立也

村上山般若寺

同村小あり曹洞宗 尚所 久昌寺末 文明五年昌山法師建立して真言
 宗よりが衰衰及びの永祿年中生約氏再興して久昌寺の末

院と云ふ境内業師の存する大和國生駒山の鬼取茶師の像と云つて附する其像は
 此茶師の鬼取の存するものや尚所の門ありて鬼取の教の怪也其の像は
 と斬状と云ふが怪也の存するものや尚所の門ありて鬼取の教の怪也其の像は
 と切付る法ありて及おもきかひりて鬼國の無吉の能くけると云輪丸と名づり
 て生約の

櫻雲山常觀寺

同村小あり曹洞宗
 尚所 久昌寺末

當寺の開基は古くは年月知り

の御時鑄る洞像と云ふ世に凶愛わんとす
 承祿元年大庵和尚中興す本尊地藏菩薩ハ 仁明天皇
 承祿元年大庵和尚中興す本尊地藏菩薩ハ 仁明天皇
 承祿元年大庵和尚中興す本尊地藏菩薩ハ 仁明天皇

作し持たると使者して金具の鞍轡五口進上りしれ則其使小甲州漆所望りて言坂原の
竹竹と甲斐國漆三千杯作し持たると一青沼助を法方より後依りて言坂原の

削栗神社 同村小なり延喜神名式削栗神社本國帳小從三位削栗天神と云ふなり今ハ八幡と
稱次集説ニ按削栗作刺和名抄曰栗刺俗云久利乃以加云云例云八月三日ハ
大社少くわアツヤ津之公為神也
を委ふ今四島の字に於まり

鴛粟山徳法寺 同村小なり今於る宗五派宗耶本山の云まくり天台宗と云ふ坊と云削栗
改む其砌上人修くひに深きなり今も齋院の教入まり今も五坊せりて五ヶ寺ありし
改年礼の竹兵火のりり五ヶ寺もまき易地と云今慈代瑞仁寺瑞在津蓮寺法林坊より
なり五ヶ寺

上郡駒 奈良村山と村も其外郡中清村小伯樂多馬と相て法方一坊と上郡駒
又延喜左馬寮式小銅戸尾張國九烟とありては季數と云ふ古

永昌山観音寺 瀬部村小なり曹洞宗三洞正眼寺未だ云十六年日山
和尚中興と云ふなり今も三十三観音と云ふなり

神明社 同村小なり伊勢の神領御厨の地なり今も古社なり神風抄
尾張國瀬部御厨とありて是也 豊受皇大神官と云ふなり古所の竹と河野河
内守正典公致

名産竹箆 同村及び高宮村ふせ村もよみて竹箆と 此是松竹郷と云ひて昔
は松樹竹林多く竹の性清く諸器小造りて上品あり故ハ瀬部の箆
作りとて名おとす尾張の竹箆ハ四五百年以前よりの名産と詳書類

從本の應仁池の御靈合戦の条ニ細川勝元の畠山尾張守政長の方人
少くありてなす助力と云ふなり尾張守の軍勢敗軍也此の落書
小倉小倉と竹とたのそとりのと云ふなり今も竹と云ふなり

又朝日物語小太閤天下と大形治りて小田京御出陣の時清波三日
伴ありて其の餓鬼腹空穂とて大なる穂とくせらるるなり

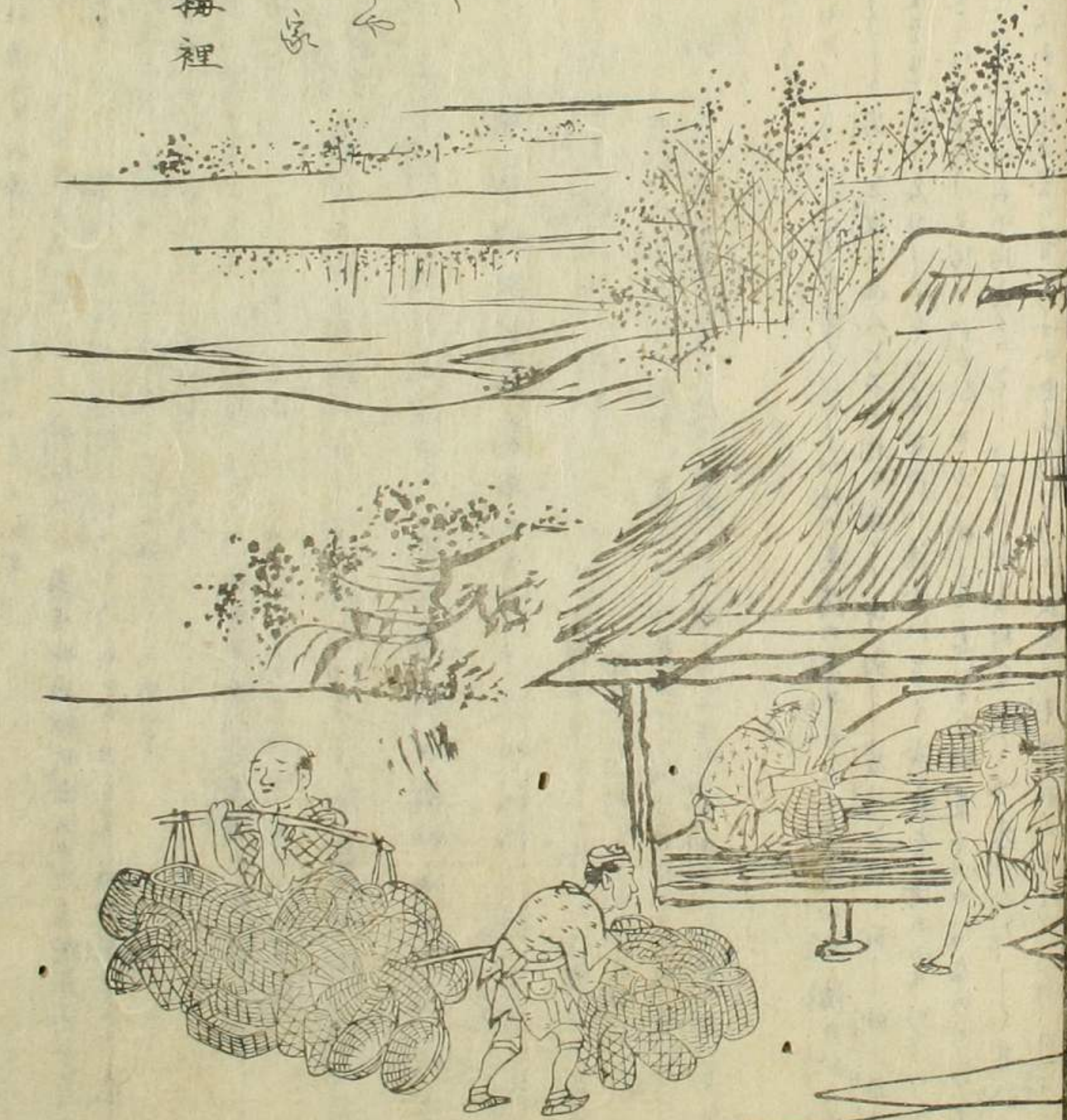
熱田の空植作り瀬部の箆作りと云ふなり寄合作りをれども言ふ
は組の組より松葉村に竹祐と云居去りて彼が組出ると今空植
小なまは御腰につけり竹祐の御褒美とて米十石下さる云と云

て瀬部の箆作り久しと云ふなり

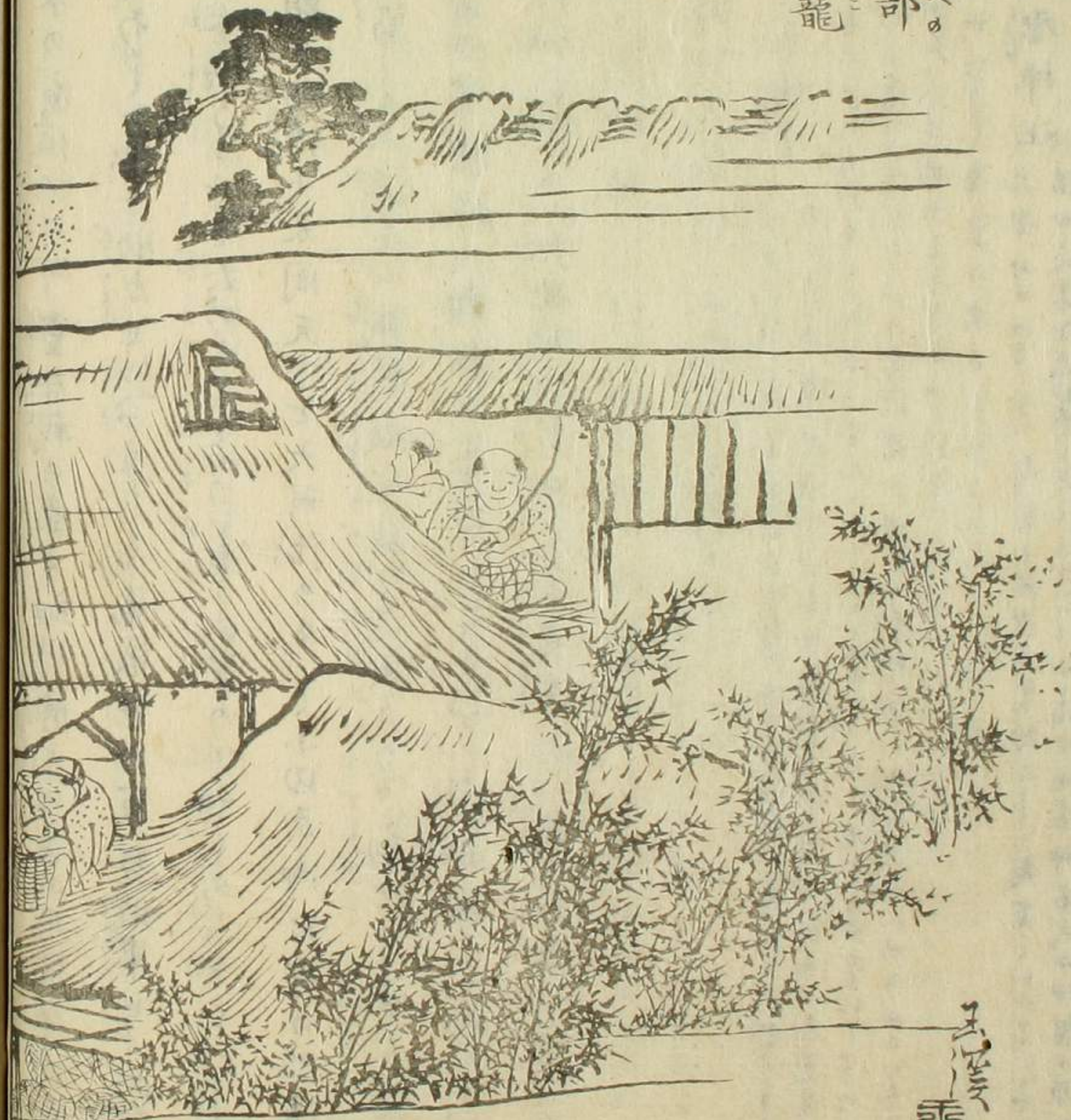
勅願山長幡寺 赤童子村小なり真宗本寺村百位も未開創の年月久しと云ふなり
天正十二甲午年空範法印の中興なり本寺の正統なり慈覺大師の彫刻
ありて三十三観音の一所なり隆瓦小日若童子村の過りて寺地大興寺にありて華尊大師
作の村名ハ其徳のよると云ふなり門外に
白山社ありて古寺の遺りなり

伊賀々原神社 本宮村小なり今ハ新宮と稱本宮村むハ幾賀と云ふなり今ハソノ一と
後世文字と本宮と云て云ふなり延喜神名式ハ伊賀々原神社本國帳

竹の夢
吉原ハ
吉原の家
梅裡



瀬竹造
部籠



香齋

小従三位伊賀々原天神と云侍り奈津勢田大神宮也

未社高藏社源大夫社等有り例系八月十九日

高屋御厨

今高屋御厨此高屋御厨様代系三十夕赤曳糸菓子等と見
螢の科と云又高屋御厨の境内あり大杉一樹あり大樹也
近也穀里ありを記し此御厨の跡のありありと云

八幡社

宮後村あり寛永元年子九月蜂原河波守至鎮入道蓮菴の幼清あり日
三年宮八月十五日ありて宗礼と云馬四疋と奉り獅子舞ハと云

若宮八幡社

カ長村 社傳云高屋御厨より清原ありと慶長御遷府の節高
村ありと云

疫神社あり瑞籬拜殿透垣鳥居ホも有り又此社内の砂と云て安産の

守りとするに必矣験あり例祭八月廿九日 柳子并承るの儀と云此隣村今高屋村也

女長村ありありて女人形の祭一疋あり是と云此御厨よりありて此一河津村の人形ありと

て云い此河津村ありと云い此河津村ありと云い此河津村ありと云い此河津村ありと云い

まきのぬかあり

石枕里

石枕村と云り石枕と云り石枕と云り石枕と云り石枕と云り石枕と云り

石枕の本と云り石枕と云り石枕と云り石枕と云り石枕と云り石枕と云り

石枕の尾流石枕の里ハ昔あかき入流ありて此石枕の村也

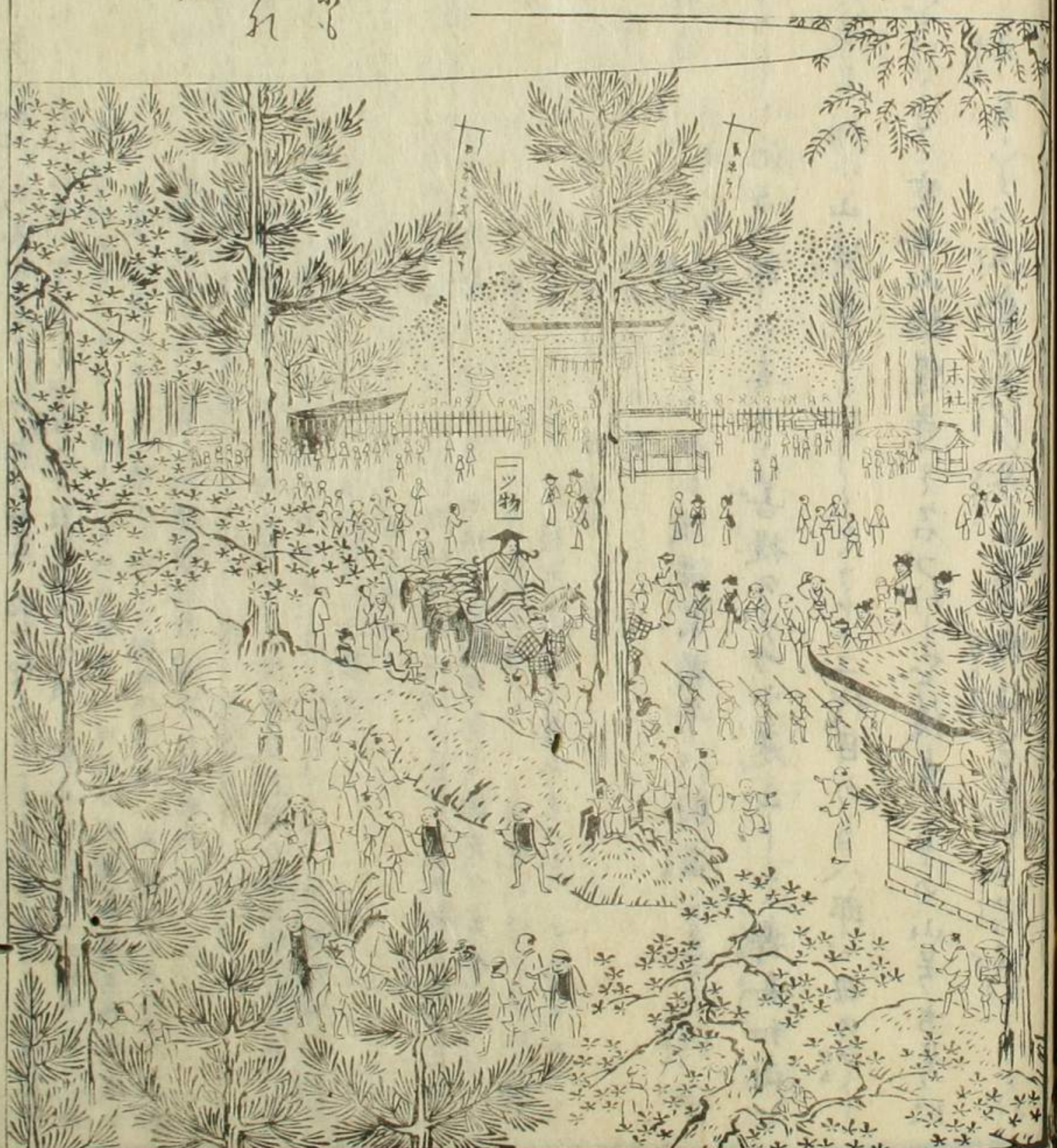
高屋の大杉

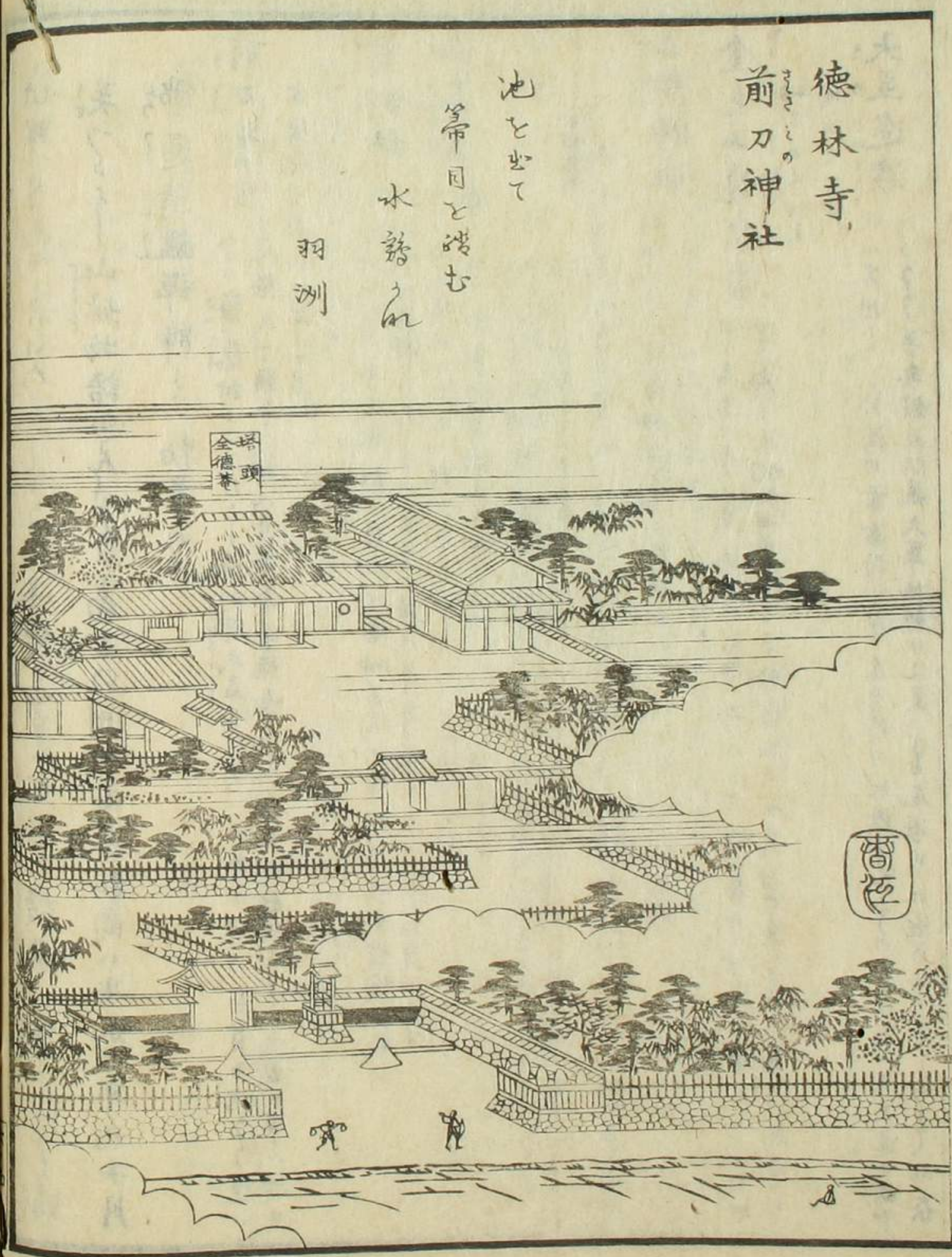
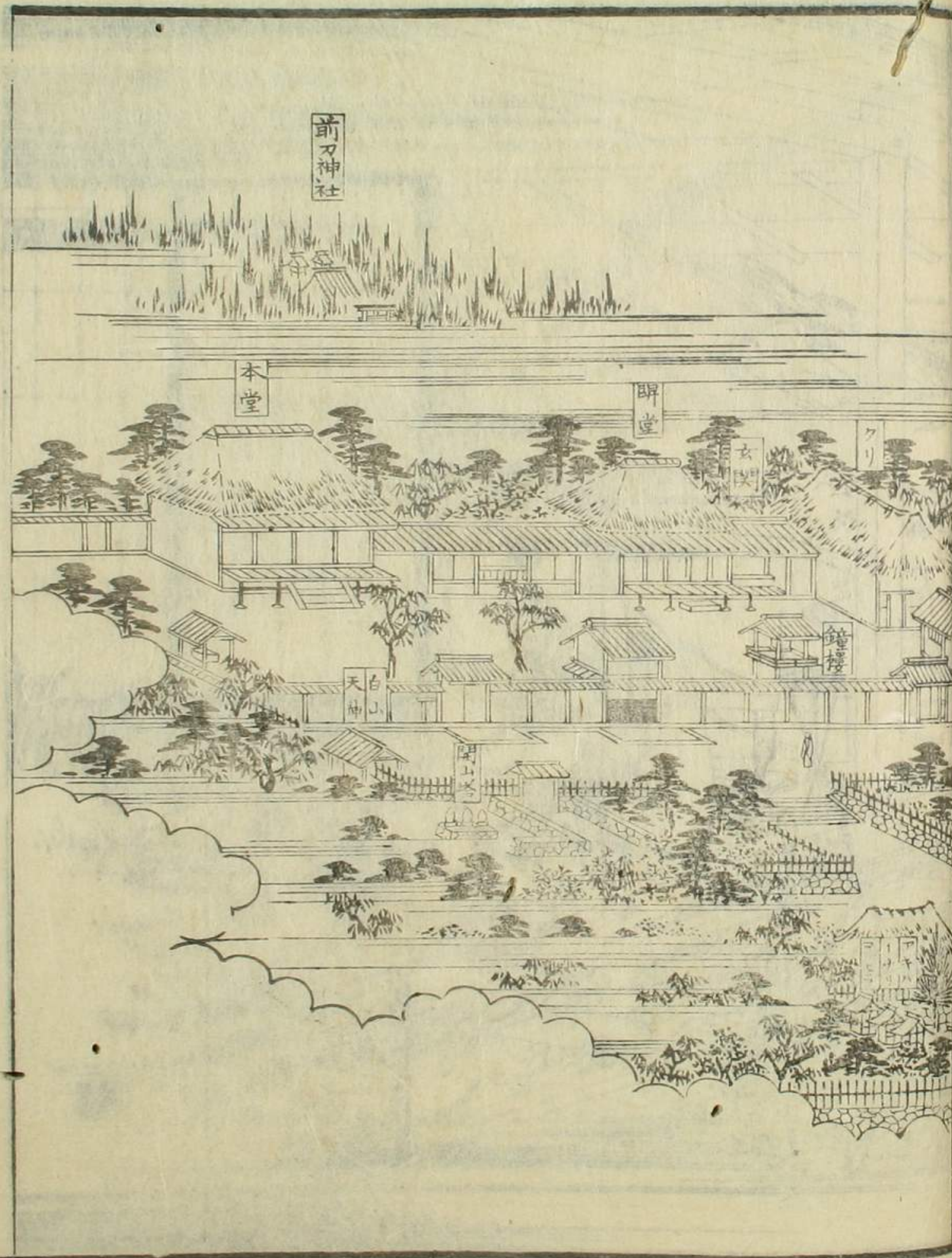


力長
若宮八幡社
祭礼の日安良の
一物と季後も國



杉杉の
まじり中
る
旭湖





徳林寺
前刀神社

池と出て

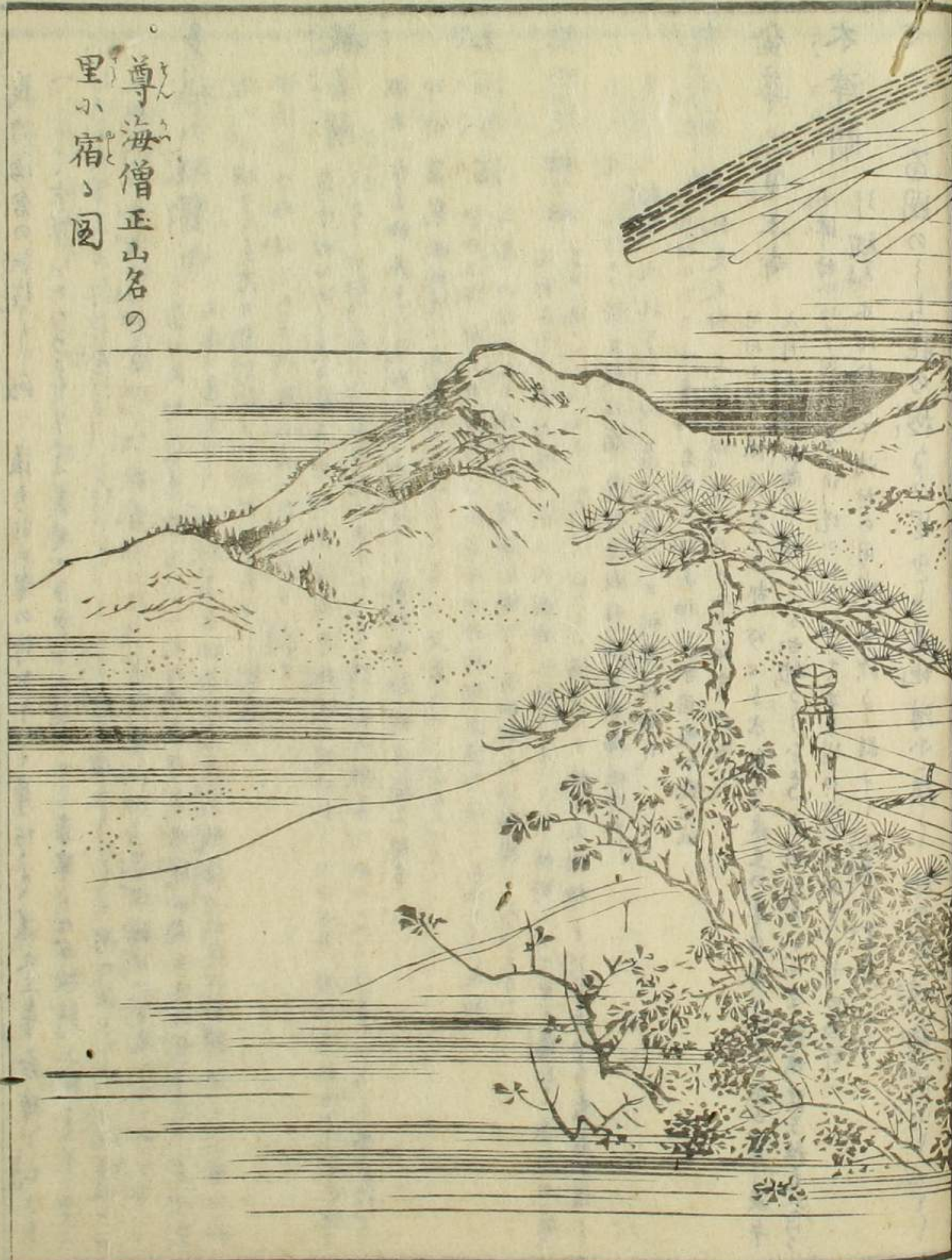
第目と礎石

水落の

羽洲

香

尊海僧正山名の
里小宿の圖



せし信清これとて是信康の二男なり信長の殊筆なりとて中らひりてさうてさう
合戦十位七公の又信康も信秀も未だの城に在りしとてあひやうとて天文十八年正月十七日大
山及び樂田より人殺しとて春日井原とて近邊に龍泉寺の下の拍井口一樹を放火し煙と揚され
信秀軍多と幸て未だより近付一戦は未だ方未だ結らざり大山を多く討てられ春日井原とて
近て悉く敗軍は其の存有 信康を討てりてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
信長へさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
池田勝三郎信輝 吉城とてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
織田源三郎とてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
戦死の信信雄公領知りてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
公年盾起りて相争ふ事合戦なり其相争ふ事合戦なり其相争ふ事合戦なり其相争ふ事合戦なり
と他尻平の馬 吉城とてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
勝三郎 今 地伊守は輝入道勝入道略とてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
ア 勝三郎の叔父の信信清を討てりてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
比治子紀伊守之助とてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
一うらか友を討てりてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
城とてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
父長尾武蔵守吉房 道常同 吉城とてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
信三輪出羽守三輪五郎吉房 等城代よりさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
五年の礼小運徒小組大坂より加勢とてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
の押入をいれ羽黒より押寄りて城近き陣取す且又石川光吉の本方の代友とてさうて
東照宮下野の山の陣陣より山村吉三村平吉とてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
仰とてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
先吉が死罪は許赦免りてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
ままよりて代りてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
和らむ吉次二万七千石少く徴せりてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
重岡とてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

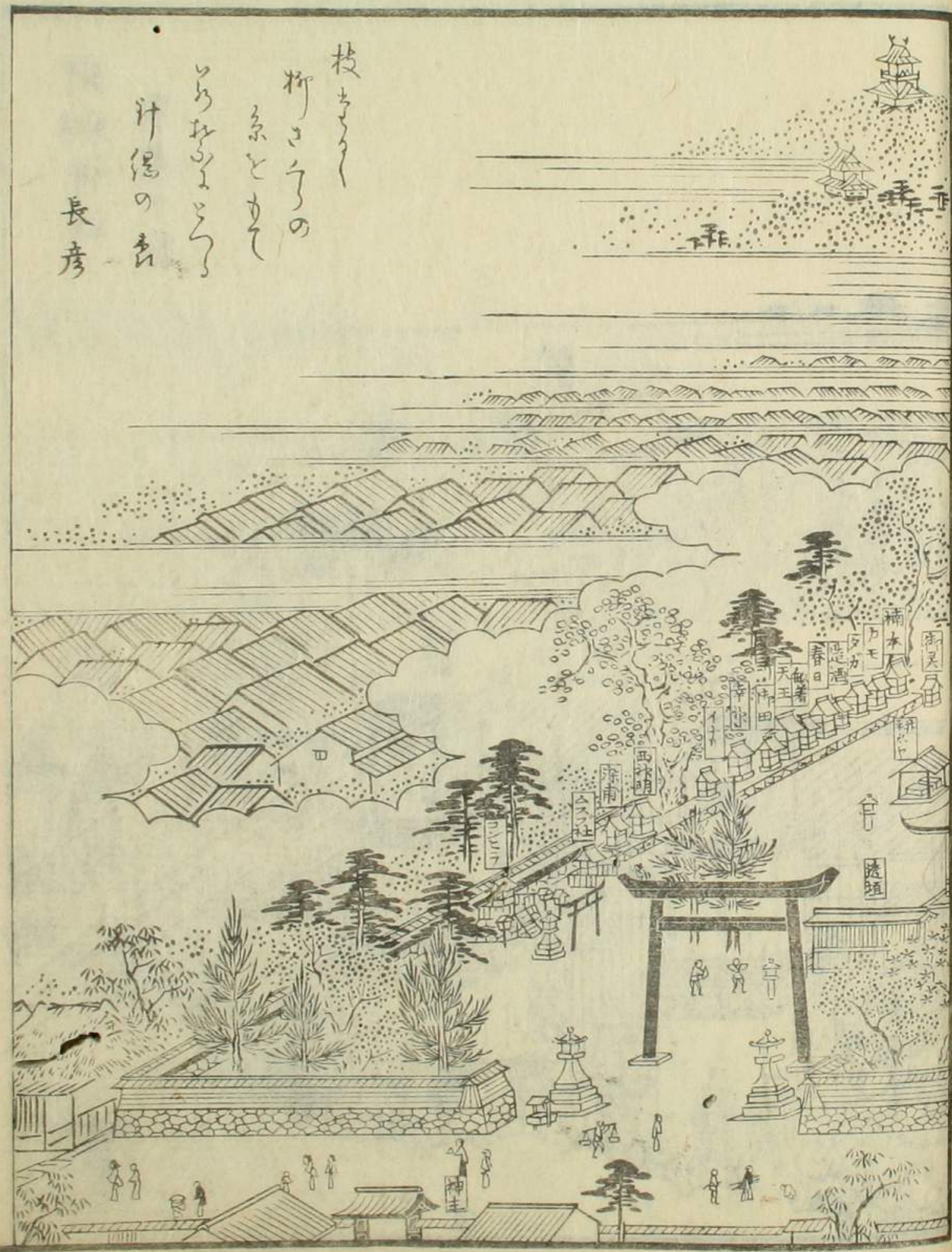
針綱神社

中谷栗町小あり
白山社と林次

延喜神名式小針綱神社本國帳小従一位針綱名

神とてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
移一慶長十一年再び今の町へ遷座とて舊の平山の地と今白山平と
り社領ハ慶長五年小笠原和泉守吉次の寄進より南社ハ此地の生
土神ありて頗る大社あり 拜殿渡殿祭文殿透垣鳥居など嚴整小建
つた右の末社三十六祠巍然とて鎮座す 浦次之末に城下才一
の靈社あり 例祭 八月廿七日試樂同廿八日車樂及び競子ありて神輿と余坂
て絶ず近町中の氏子御善美とてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
す妙の郡某の斗より尾山の社ありて治平安民の幸典なり 御旅所 余坂小あり
八月鎮主成成産の 神主 赤堀 氏
寄附ありとてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

を田の沢小休とてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
川とてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
ありとてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
まらちりて大ゆさくさくさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて
つたやうにさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうてさうて

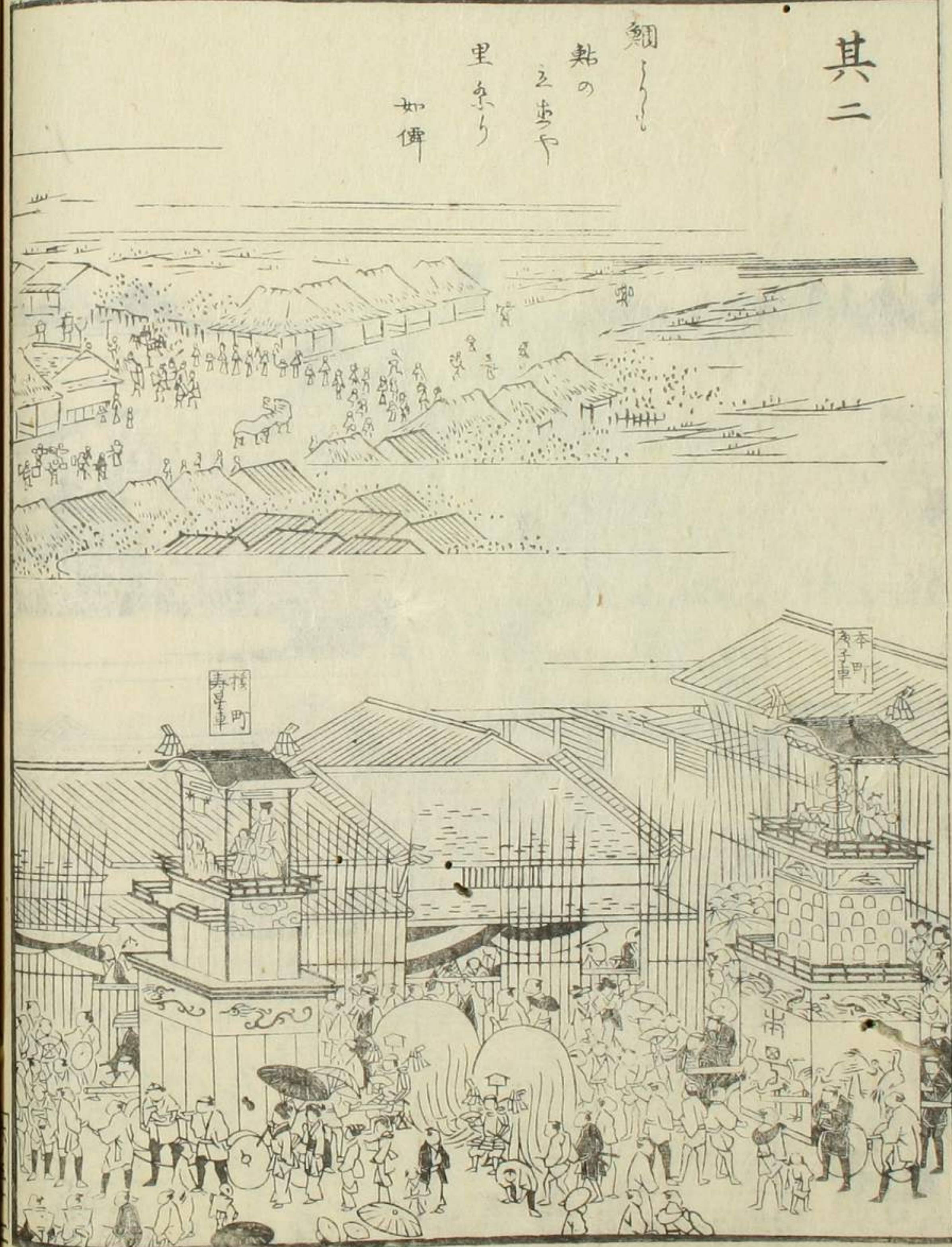
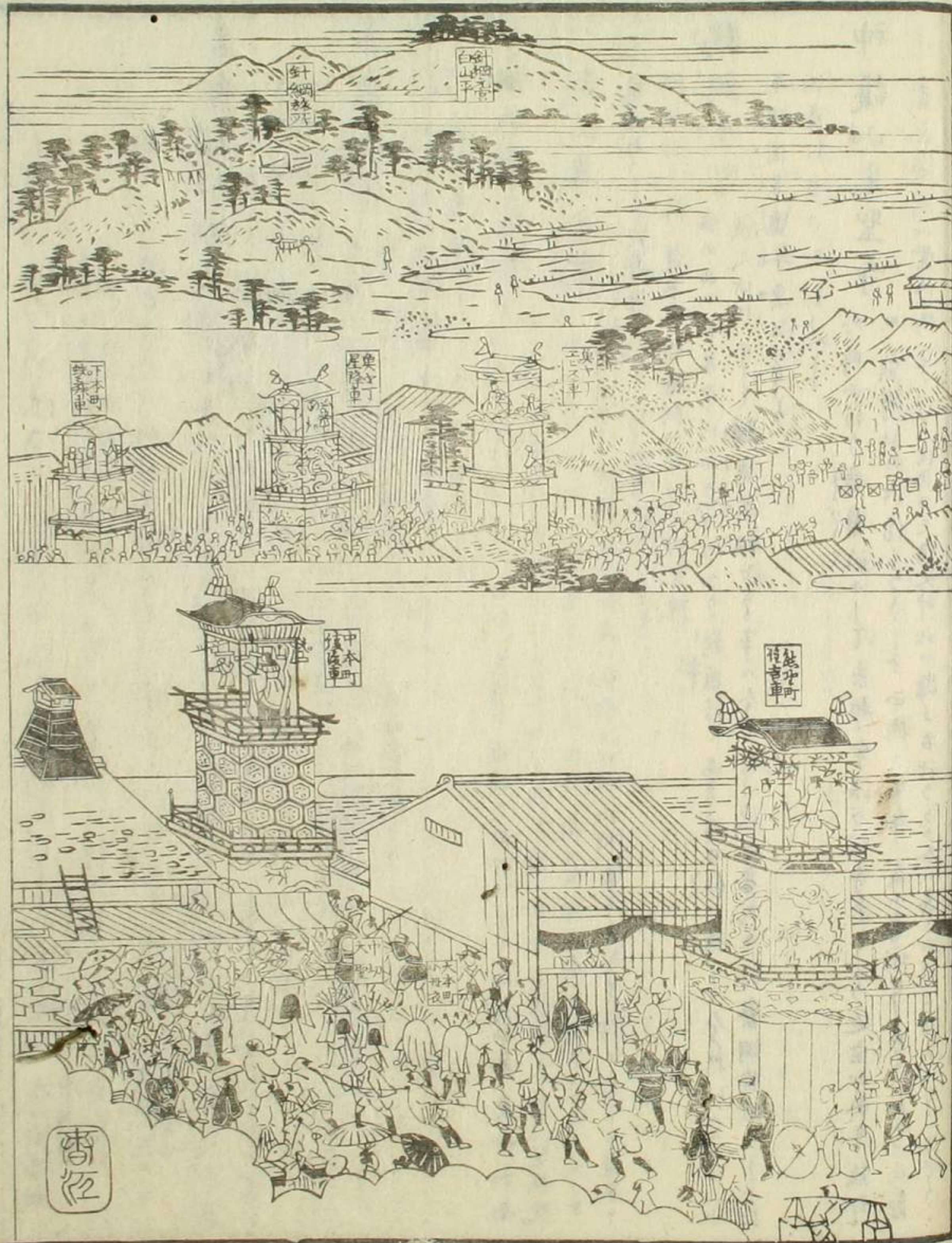


枝きり
 柳さうの
 系とむて
 けらねらよとつ
 汁徳の表
 長彦



針綱神社
 天地とよみに
 路ゆぬ
 うきりの
 よも花
 まり
 うひつ
 鳥丸大納言
 先祖御

香



其二

船

船の

之出

里系

如俣

香江

本門

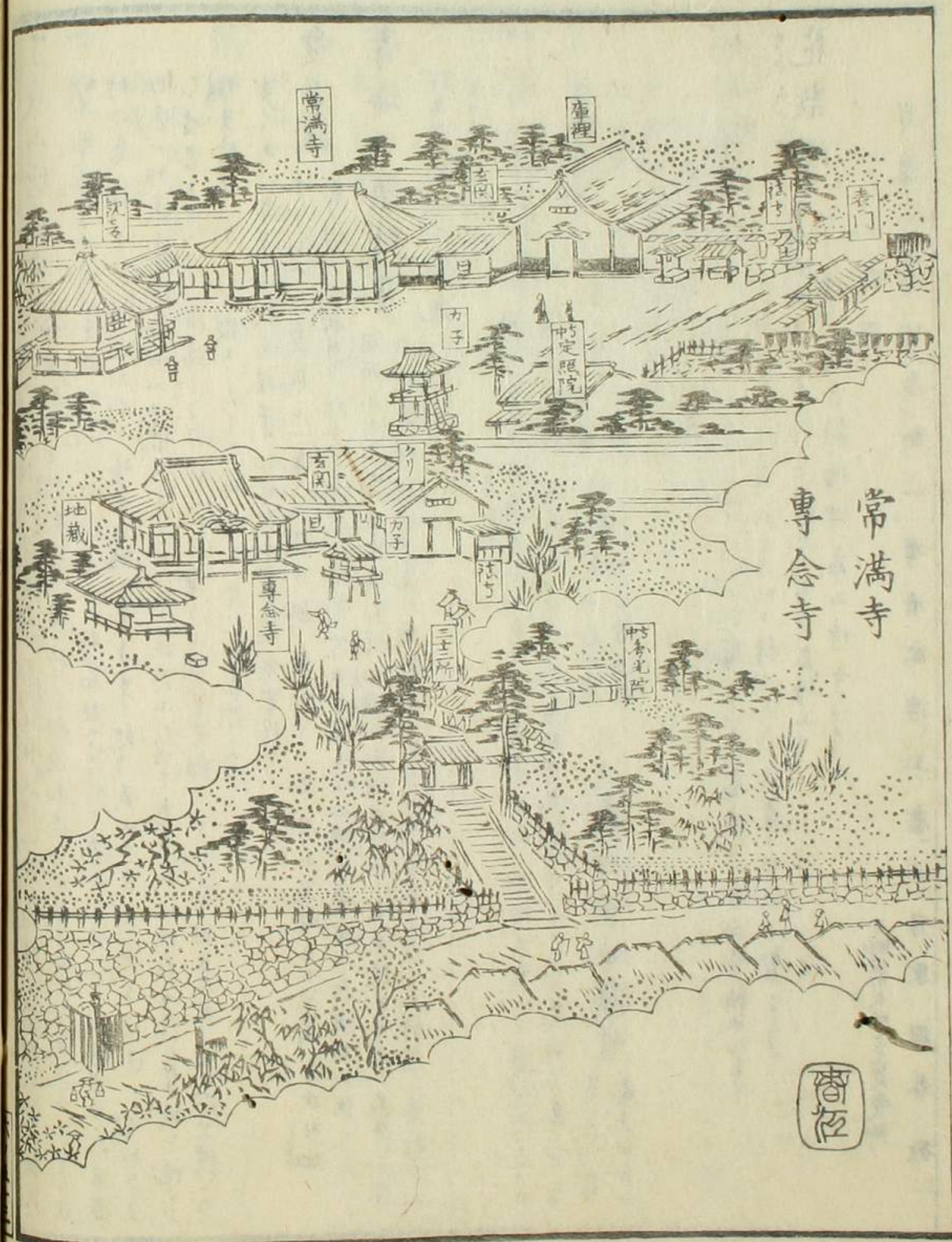
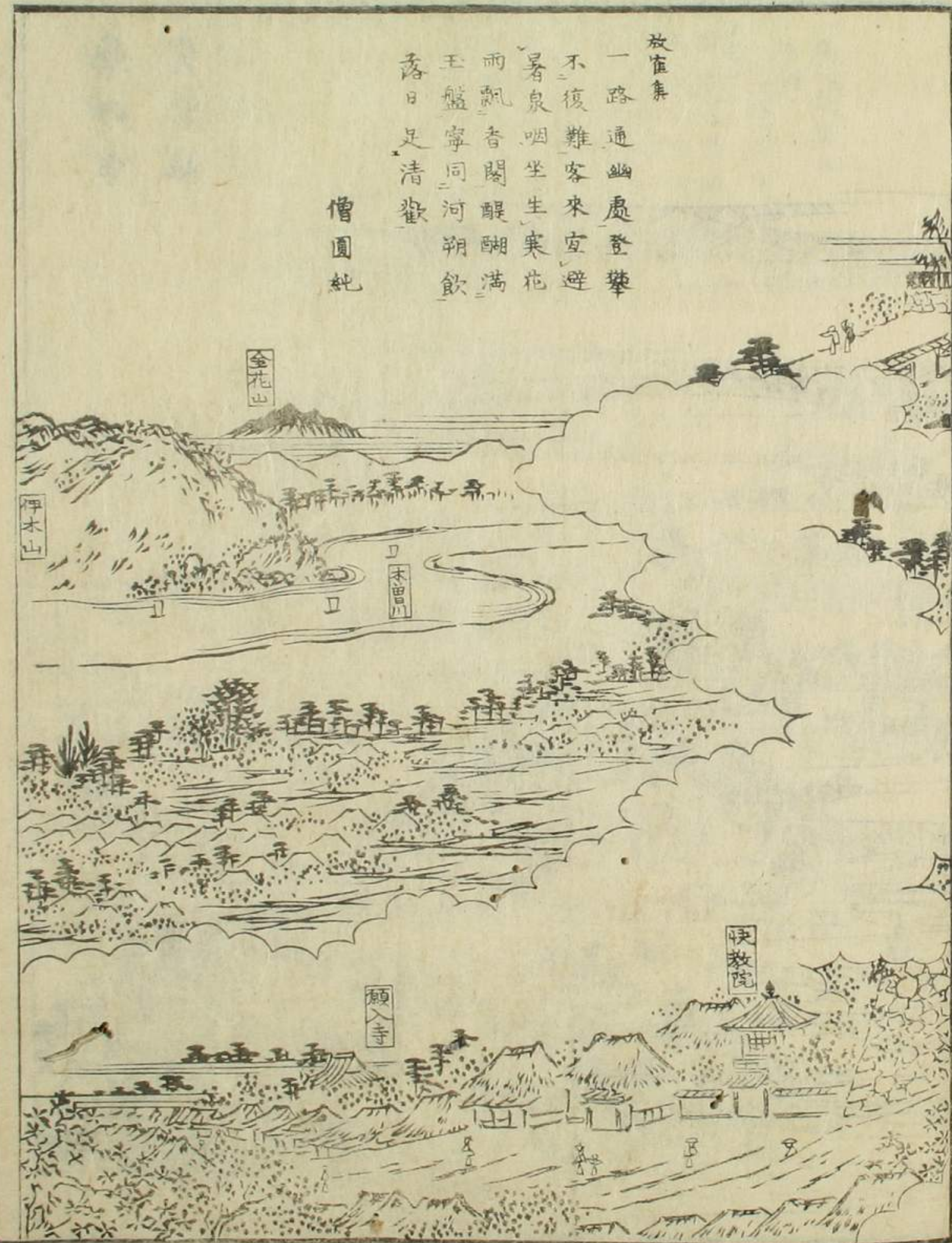
三ノ中

中本

針山

放直集
 一路通幽處登攀
 不復難客來宜避
 暑泉咽坐生寒花
 雨飄香閣醒翻滿
 玉盤寧同河朔飲
 落日足清歡

僧圓純



常滿寺
 專念寺

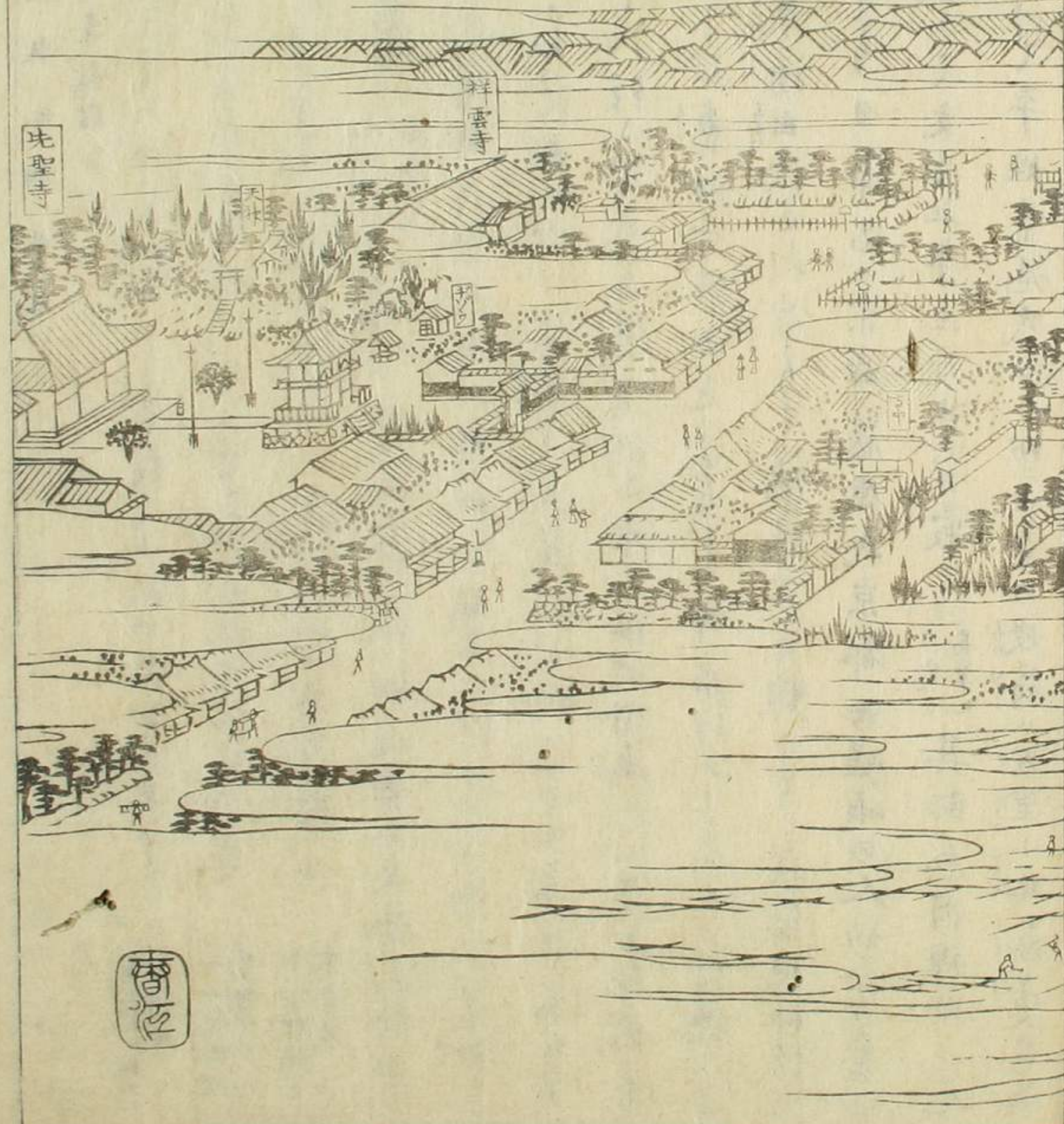
齊

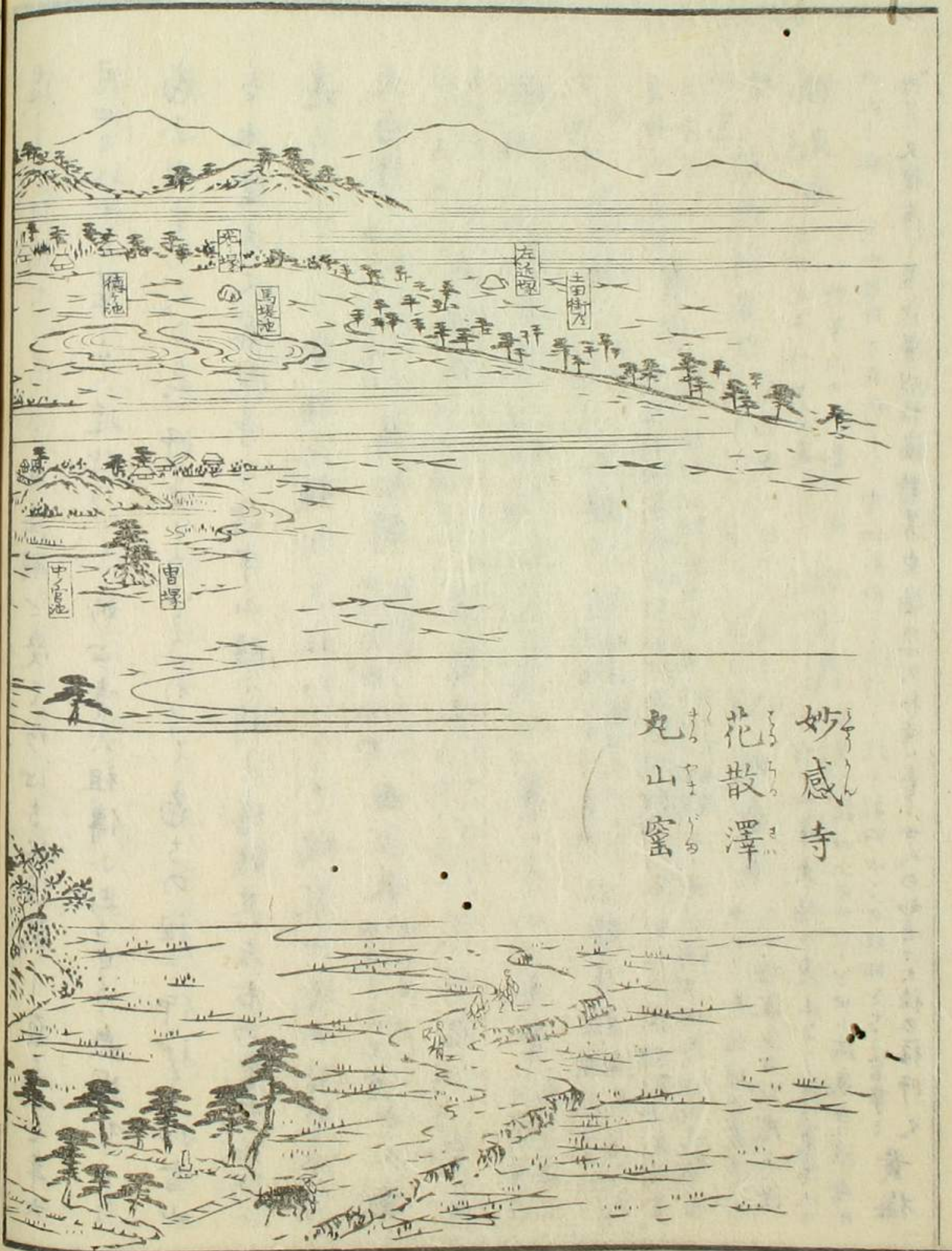
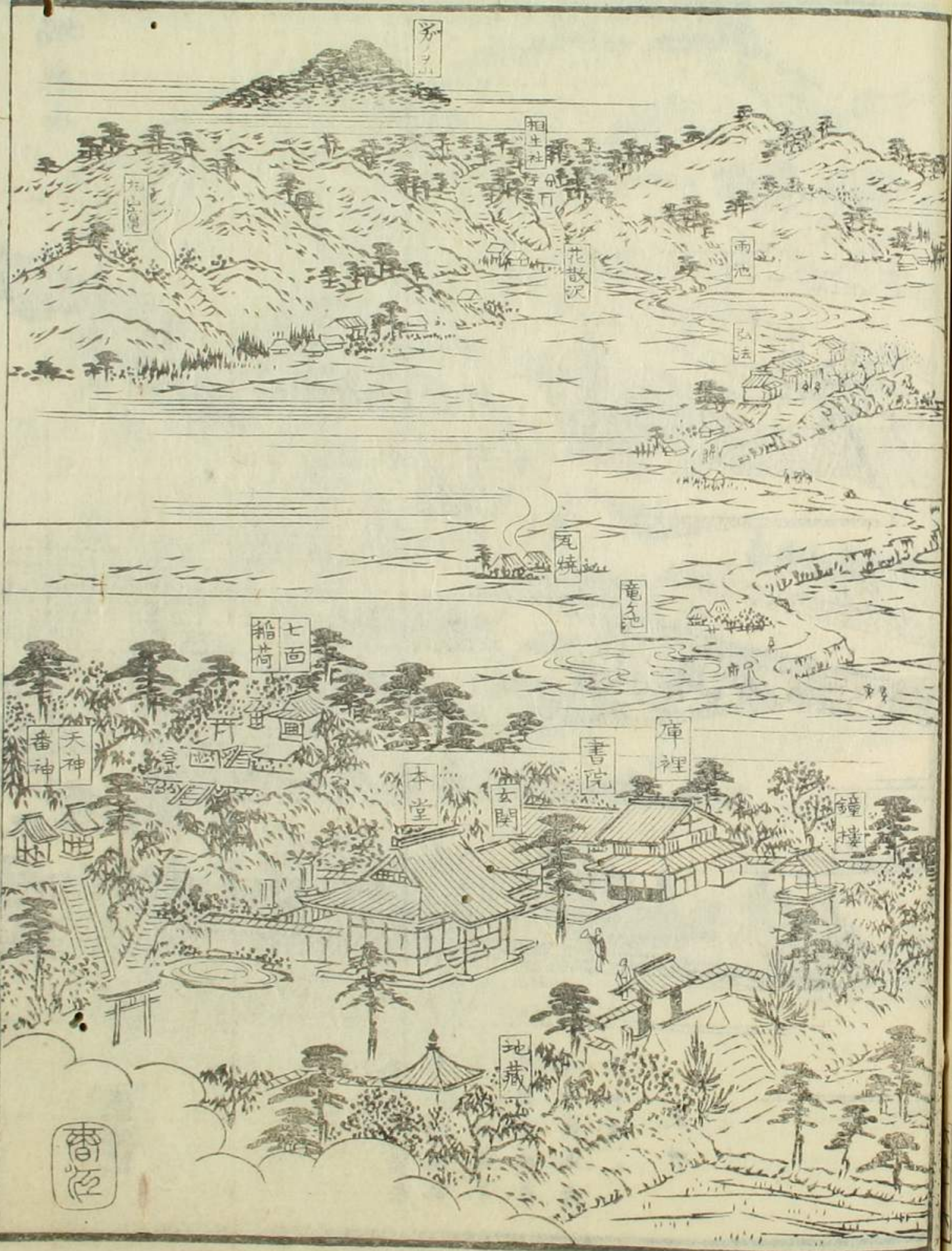
藥師寺
愛宕社



德授寺
先聖寺
祥雲寺

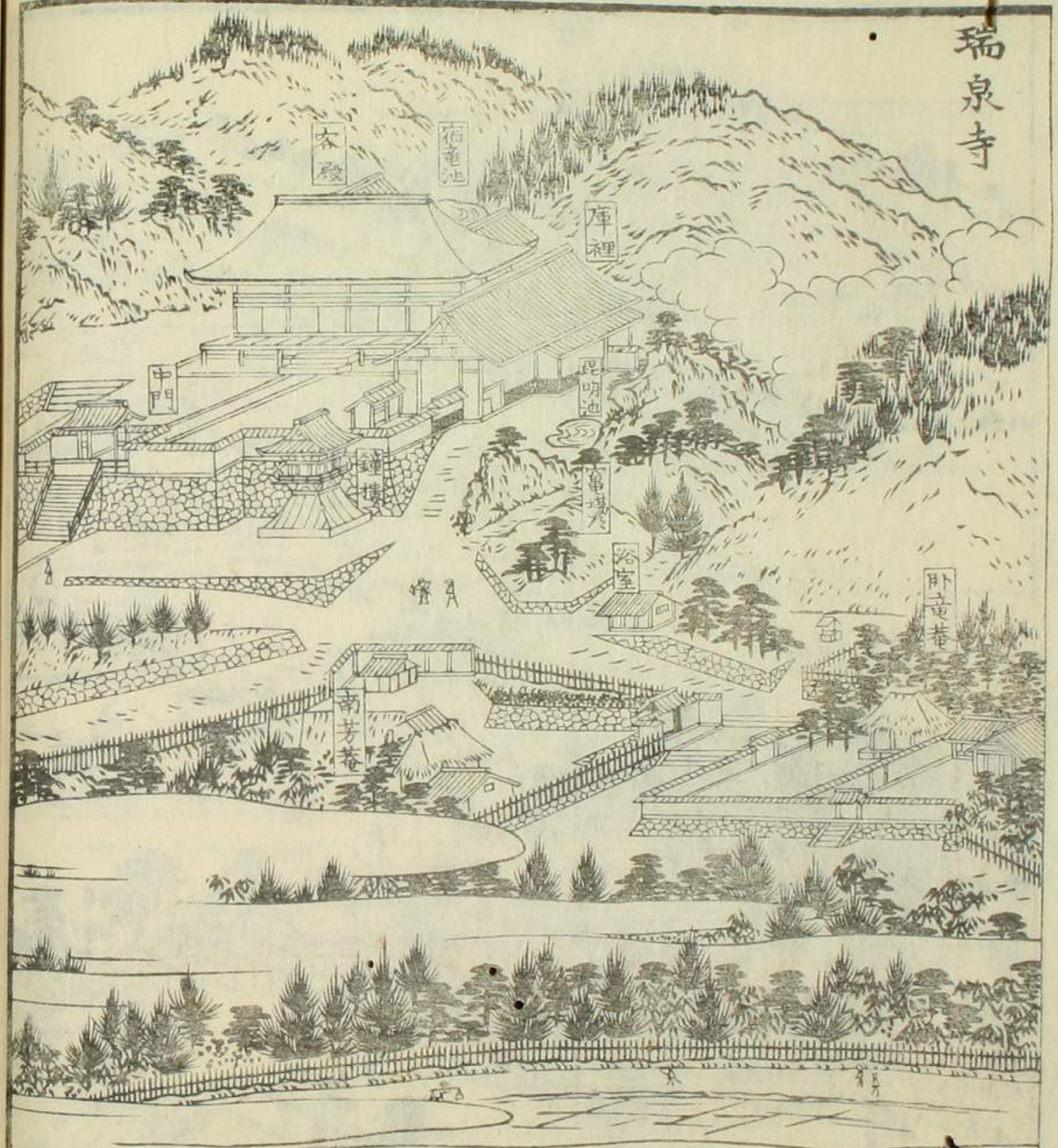
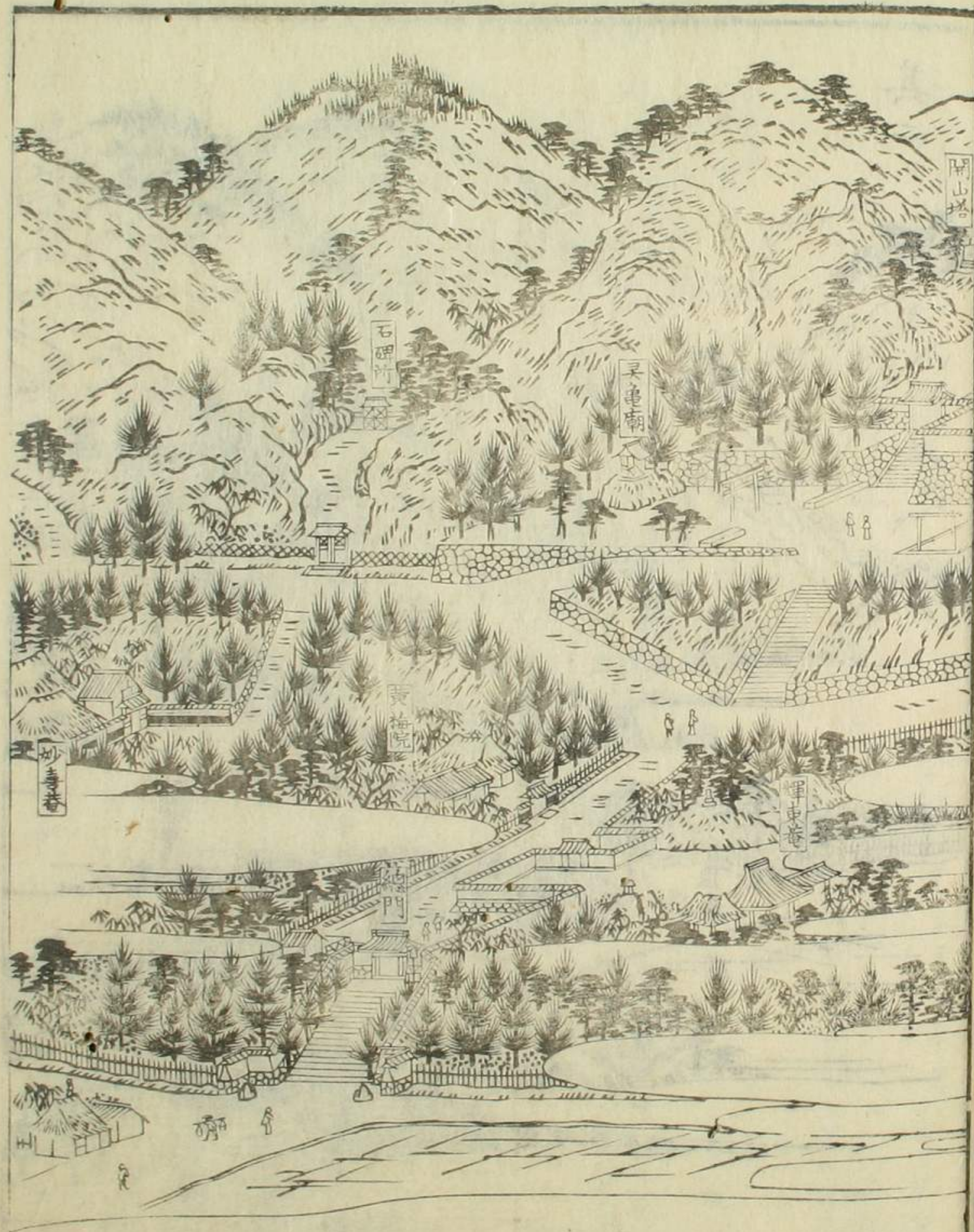
尾州先聖寺
有贈 僧南源
東遊卒 僧南源
欲退先聖殿
直造古名場
門對王城近
川流玉帶長
問禪多勝士
衛法現金湯
繼述前人志
遷地挺特郎





妙感寺
花散澤
丸山窟

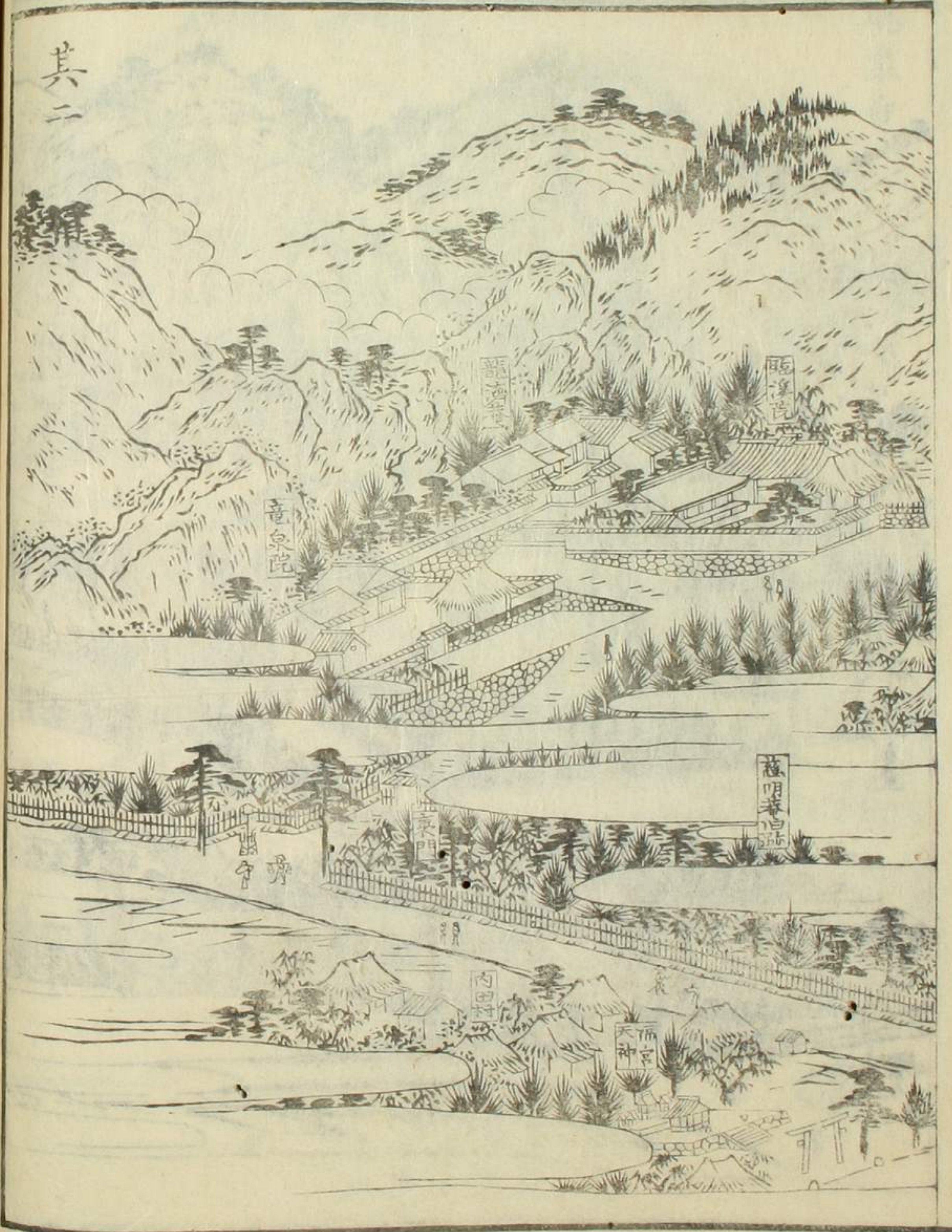
香



瑞泉寺

閩步道遠登
 瑞泉宿龍池
 上得詩禪青
 松綠竹紅塵
 絕又訪高僧
 入扣玄
 艾州





其二

院 永享七年義 龍濟庵 天の建立し 室徳二年雲谷 妙喜庵 永享十年義 南芳庵 天の建立し

文明十七年天綴の建立し 義天雲谷 寺領 秀吉公の御朱印よりお下り 性高院 天綴しに世小名三つ子傳り 君及び 国祖君の御黒印よりお下り

其りか伝るるの跡入りし 石川傳前ちの書簡多し 梅花堂 音龍則瑞 泉寺 山跡景川 任之 萬里居士 敷 盡 風 赤 前 輩 倫 只 今 翁 獨 面 猶 春 浴 花 亦 待 衆 飯

日 五 鳳 樓 前 眼 一 新

内田渡 内田より必多川を渡り 美濃国各務郡清村一づく 龍溪一づく 川白ひの 鶴沼の 珠山の 渡り 尾より 移江川の 半の 續日本紀の 尾の 渡り 尾より 移江川の 半の 續日本紀の 尾の 渡り 尾より 移江川の 半の 續日本紀の 尾の

抑犬山といふ名義の遊獵の業より起るる名めて 鹿狩鷹狩等

小深山廣野小入り 時の必獵犬と具く 鳥獸と返出させ是と射る

と要し 次なる山野に狩獵しりと犬山と名づるより 舊本今昔物

語小しり 今城下町並廣く 山ども 犬山と名ぶ地の 東南數

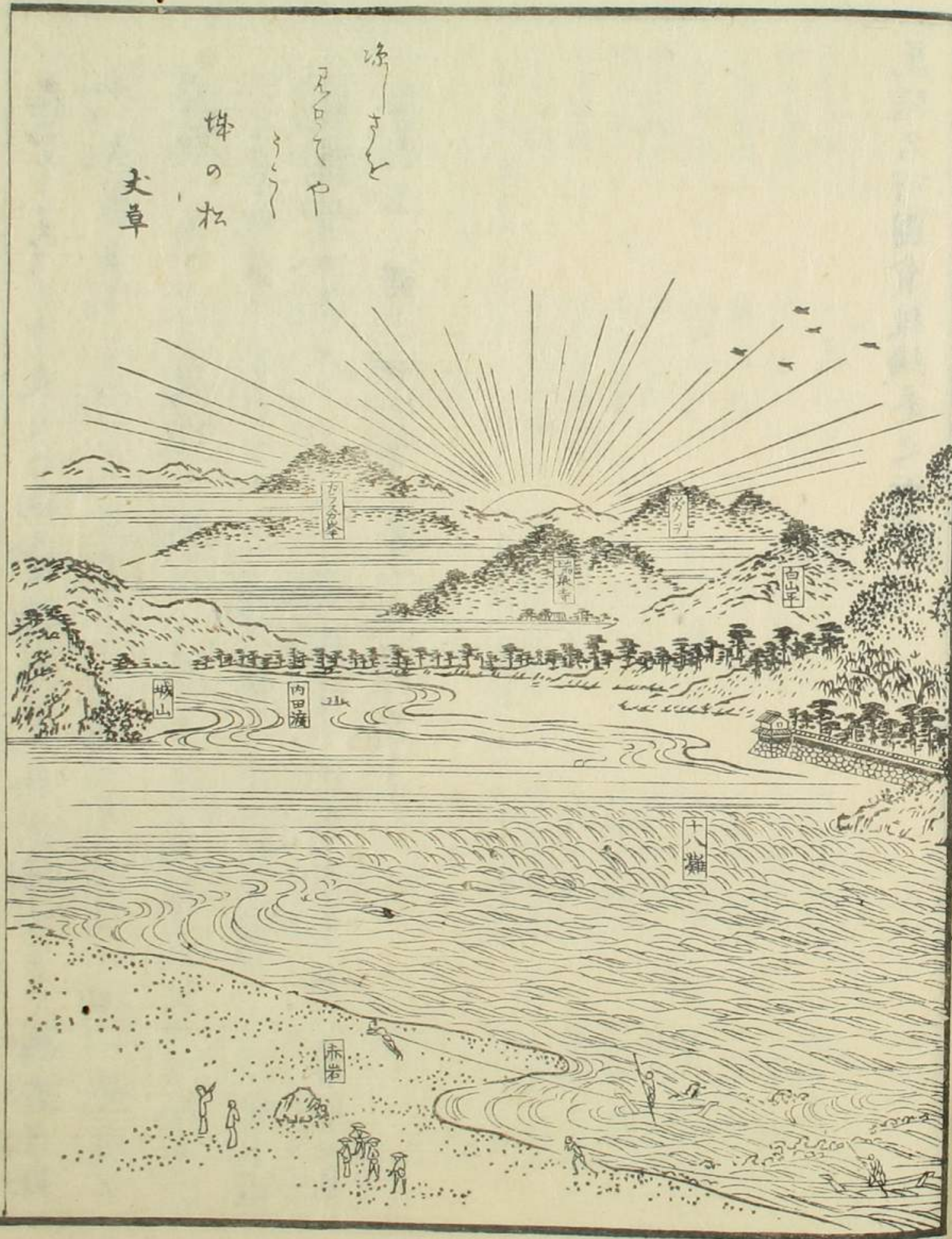
里小豆りて甚廣大なり 山ども 犬山と名ぶ地の 東南數

又樂田村小つけ 嘉都 今 藤部 の地 羽黒村今枝村 近世今井と 寺

の地と犬山とも 犬山庄とも 山ども 犬山と名ぶ地の 東南數

の地と犬山とも 犬山庄とも 山ども 犬山と名ぶ地の 東南數

の地と犬山とも 犬山庄とも 山ども 犬山と名ぶ地の 東南數



涼
 見
 城の松
 文草



岐蘓川北岬より
 乾峯城と望む圖
 擬上白帝城
 一從躍馬倚崖
 嵐千古孤城煙
 外開天末浮雲
 空自在中原秋
 色為誰來瞿塘
 返照隨行幔赤
 甲晴嵐落酒盃
 試向最高樓上
 望可堪暮雨擁
 荆臺
 君山

香煙

平風堂

内岩

十難

赤岩

城山

内田渡

高平

高平

高平

高平

高平

高平

高平

高平

志づゝんふゝり夫らの地膏澤りて鳥獸棲やもく猪鹿鬼雉
 子等甚多し〜として古来より地頭の武家及び郷士等常に
 遊獵と事〜武業と勵〜とて其遊獵大山の業の
 つゝて地名もあ〜つゝ頂の事りや今〜五穀菜蔬
 莫龍等不足〜の會獸〜飽富り〜誠小豊饒比類
 上〜國と世小賞〜来〜ゆ〜

尾張名所圖會後編卷之六畢

全部引書目録

日本書紀	古事記	釋日本紀	書紀集解	續日本紀
續紀金澤本	日本後紀	統日本後紀	文德實錄	三代實錄
古事記傳	舊事紀	類聚國史	扶桑略記	日本紀畧
大日本史	本朝世記	統王代一覽	重修統王代覽	類聚元格
類聚大神任	弘仁式	公武令	延喜式	拾芥抄
職原抄	職原抄頭書	職負令	公卿補任	公卿傳
政事要畧	桃華葉葉	官職秘抄	倭姫世記	倭姫世記講述抄
古語拾遺	安居院神道集	神道名目類聚抄	神道御旨百抄	本朝神社考
伊勢三所大神宮神名私書	皇宇沙汰文	伊勢大神宮儀式帳	大神宮諸雜事記	神宮雜例集
皇大神宮年中行事	神家常談	神鳳抄	春日驗記	大和本紀
神祇宝典	熱田本紀	一之宮記	二十二社注式	寛平熱田録起
熱田正縁起	元々集	熱田大神宮鎮座次第本紀	永正六年熱田講式	寶劔本紀
熱田尊命記集説	尾張式社考	熱田大神宮神変記	尾張国内神名帳	文和至聖御神領目錄
尾張式内神傳考證	大目神社藏本國帳畧本	神名帳頭注	参考本國神名帳集説	座主本貞治神名帳
尾張式内神傳考證	榎河上天淵記	本國神名帳集説	時綱津島祭記	真清標桃集
杵築社記	龜尾天王社縁起	中島官古縁起	萬濠津島祭記	若宮幡宮社記
若宮祭巨細記	市江祭記	曉風集	針綱神社縁起	樺天満宮縁起
七尾天神縁起	統世継今鏡	保元物語	水鏡	增一鏡
榮花物語	平家物語	長門本平家物語	東鑑	参考平治物語
源平盛衰記				愚管抄

兼久記
太平記
文正記
信濃官傳
織田軍記
戴恩記
甲申戰國記
賤ヶ嶽軍記
四戰記
玉滴隱見
台記
康富記
十訓抄
皇胤紹運錄
國造國司略志
武家評林
豐鑑
勢州四家記
小野氏系圖
淺井系圖
大橋家譜
尾張人物志

兼久軍物語
劍ノ巻
南方紀傳
信濃官傳附錄
織田真紀
征韓傳畧
統撰清正記
武家高名記
聚樂物語
岩淵夜話
玉藻
百練抄
康正二年造内裡段錢並國役引付
新撰姓氏錄
尾張國司歷任畧
織田氏系圖
難波創業錄
稻葉系圖
加藤系圖
佐々傳記
長氏系圖
張列人物志

保曆問記
應仁記
甲陽軍鑑
總見記
當代記
天正記
朝日物語
那古野合戰記
盛長私記
塙本螢蠅抄
公事根元
麒麟抄同附錄
將軍家譜
尾張氏系譜
安土創業錄
信雄御從去限帳
山田系圖
多々羅世系錄
尊常系圖
鍛冶系圖
尾張人物志畧

神皇正統記
應仁略記
和漢軍談
信長記
太閤記
山證本桐葉合戰記
朝鮮征伐記
長久手戰記
老人雜話
枕辭日記
明月記
江談
西官記
本朝武林傳
大宮司家譜
豐臣秀吉譜
福島正則家中分限帳
津田系圖
紀氏系圖
富永系譜
先替叢談
諸家人物志

大須本神皇正統記
鎌倉大草子
浪合記
重修信長記
小瀬甫卷太閤記
金山事蹟考
編年要略
參考長久手記
關原軍記
常樂記
園大曆
尾張解丈
比賣鑑
分脈系譜
歷名土代
豐臣家譜
唱叶留記
石黒系圖
森氏系圖
大中臣系譜
日本人物史
人物志補遺

人物掌覽
武德編年集成
名家時代指掌
小栗實記
九老尚齒會記
紀年大成
易林節用集
庭訓往來
真名伊勢物語
山姥物語
寬明日記
多門院日記
拾遺集
新古今集
新後撰集
新十載集
玄玉集
躬恒家集
山家集
雪玉集
藤葉集
新和歌集

人品集
武家英勇記
武話碎玉
義臣傳
國朝諫諍錄
ちもいり日
和字正鑑抄
自遣往來
伊勢物語關疑抄
異本山姥物語
初井日記
萬葉和歌集
後拾遺集
新勅撰集
玉葉集
新拾遺集
今撰和哥集
伊勢家集
拾遺愚草
黃葉集
後鳥羽院御集
六帖詠藻

藩翰譜
明德記
拳法秘書
奮事大成經
孝女曾與傳
元龜三年書寫字引與書
和名類聚抄
類聚往來
奮事今昔物語
山姥物語繪卷
夏同日記
萬葉仙覺抄
金葉集
統後撰集
統千載集
新後拾遺集
夫木抄
赤津衛家集
色葉集
舉白集
臨永集
兼盛家集

太閤秀吉出生記
里人記
義朝最期繪傳
忠義士拔書
孝女曾與傳評判
大須本和名抄
源氏物語
宇治拾遺物語
辨內侍日記
讀者日記
古今六帖
詞花集
統古今集
統後拾遺集
新統古今集
新撰六帖
月清集
明且香井和哥集
文布
隆信家集
現存和哥六帖

秀吉遺事
續武家閑談
義經記
近世時人傳
孝子林左衛門傳
下學集
新撰樂記
河海抄
因果物語
蝶川親元日記
御也の上の日記
後撰集
千載集
統拾遺集
風雅集
新葉集
柳本家集
拾玉集
柏玉集
鈴屋集
為家々集
朽葉集

散木并歌集
續現葉集
良玉集
水雲集
尾張八景和哥
長秋詠草
阿薰歌集
榮葉集
露月家集
統徒然草
歌枕名寄
名所今歌集
中古歌仙
袋草子
撰集抄
六百番歌合
天授元年五百番哥合
龜山殿七百首
建保三年内裡名所百首
新百人一首
千首和歌
類題若菜集

李花集
續門葉集
元可家集
老槐集
津島景和歌
結捨る枕の草葉
蘿窓集
國基集
甲斐々根集
僧止水柳井記
松葉集
名所和哥集
和歌部類
袖中抄
初まおひ
職人盡哥合
文明九年七月百七首哥合
堀川百首
玉鉾百首
師兼千首
類字名所和歌

草庵集
玄々集
鷗巢集
紫禁草
萬家集
八十浦の玉
さく枕
醉月園詠草
さかづ
那濃利換和歌集
勝地吐懷篇
鳴海名所和歌集
八雲御抄
藻塩草
延享二年公宴和哥
南朝五百番哥合

堀川次郎百首
海道宿次百首
寒中夜參百首
奉納千首
十六夜日記

統草庵集
炬範家集
仙院春日御夢想御法樂和歌
實枝卿家集
鷹の行々
左幾久家集
木綿花哥集
醉露庵集
秋葉拾葉集
慶長九年熱田奉納和歌
最勝四天院障子和哥
新題林和哥集
清輔真儀抄
歌枕秋寐覺
宗祇中抄
康永二年五十四番詩哥合
自歌合
久安百首
嘉元仙洞御百首
勅撰千首
詠千首和歌
東関紀行

草根集
綾足家集
閑田詠草
瀨臣家集
繼塵集
重之家集
庵主集
正徹慰草
名所方角抄
伊勢名所拾遺集
新題林和哥集
清輔雜談集
歌林拾葉抄
千五百番歌合

白河殿七百首
弘長百首
室治百首
為家千首
名所連哥千句
光行紀行

貞應海道記
東海道紀行
日光登山道記
尊海僧正喜妻道の記
更科日記
宗牧東国紀行
東国障道記
狂哥真寸鏡
大發句帳
菴五集
千鳥掛
嵐雪句集
熱田三詞仙
阿波手集
名所小鏡
曠野集
圖りる集
泊船集
徵法錄
本朝詰園
幹林五鳳集
羅山葵未紀行

身延紀行
平安紀行
覽富士記
光廣卿あつまの道の記
為村卿紀行
宗長宇津山記
宗長手記
かこころもの記
俳諧古渡集
春の日記
留守懷紙
草枕
かこころ不二
青嵐
春秋樂
曠野後集
庵太集
前漢書
異稱日本傳
本朝文粹
梅華無盡藏
丙辰紀行

身延道記
廻国雜記
富士屋覽記
長嘯子あつまの道の記
歸家日記
東行語説
狂歌道中記
醉中雅興集
蕪衣
巴静句集
俳諧初学抄
類題土朝更發句集
鶯さう
綴箱物語
史草句集
枇杷園句集
沙鷗句集
白氏文集
南宋中肆記
朝野群載
惺窩文集
元々唱和集

春の曙の記
澤庵東関記
富士紀行
遠江紀行
名見屋日記
物社參詣記
狂歌由縁墨
狂哥鶴杖集附録
芭蕉翁甲子紀行
木匠つづ
温故集
琴笛集
乾山紀行
曉堂句集
島ちりり
枇杷園句集後編
蘿葉集
東坡詩集
廣東新語
新撰朗詠集
羅山文集
詞林意行集

打出の濱の記
庚子道記
富士見道記
関東紀行
玉露叢
岐車の道草
古今夷曲集
俳家奇人談
俳諧夢蹤
七勝記
堅並集
五元集
冬のうちハ
幽蘭草
知多の采
隨縁紀行
いさや
兩朝平塚録
粮新餘録
江吏部集
東行雜詩
南郭文集

大江匡衡家集
 尾張八景詩
 赤水長崎紀行
 白湯集
 暢園詩草
 臥游園詩集
 江東吟稿
 再游紀行
 王壺詩稿附錄
 新川集
 社盟詩載
 常照菴藥樹詩序
 西海紀行別錄
 卧雲日什錄
 尾陽雜記
 蓬列舊勝錄
 尾濃兼聚見聞集
 熟田町舊記
 衣浦千鳥集
 甲斐名勝志
 賤ノ小手卷
 尾陽年中行事略繪抄

春齋采紀行
 防丘詩選
 頃菟集
 放鶴集
 暢園咏物詩
 養浩齋詩藁
 江府紀行
 再遊詩草
 昨髮偶詠
 周南文集
 謝菴遺稿
 知雨亭記
 尾張風土記殘決
 振陽群談
 尾陽候記
 佳境遊覽
 尾張古城志
 厚覽單
 岐菴路ノ記
 國鎮記
 御廟道志(一)
 諸国年中行事

日本名勝詩選
 兼穗錄
 謂北吟菴
 蓬尤詩歸
 嚶鳴館詩集
 撫塵集
 江尾往還跋
 昨水統集
 禪餘偶詠
 自適園詩集
 清音樓詩集
 小山園記
 民部省圖帳殘決
 張列府志
 尾陽名勝志日本國名勝志
 張列畧記
 參考尾張古城跡記
 厚覽單附錄
 尾張名所記
 清須志
 事蹟合考
 日本名藍圖

日本詩選
 弊帚集
 庖園集
 牧山遺稿
 河梁雅契
 厚齋遺稿
 釣屋詩集
 西溟詩稿
 菱荷園文集
 自適園遺稿
 安政三大家絕句
 泥鵬堂文集
 雍列府志
 張列雜志
 張列名勝志名勝志
 張列志略
 熱田風土記
 古渡志
 諸国里人談
 友千鳥
 明層板道中記
 日本國正統圖記

日本詩選統編
 麥浪詩集
 買山集
 東游草
 畫錦行
 昆玉集後編
 三世唱和
 王壺詩稿
 金山稿
 寂室錄
 雜華集
 東海瓊華集
 新編錄合志
 信濃地名考
 尾列舊話略
 濃陽志畧
 熟田舊記
 知牙露見
 遊長湫記
 門莫私記
 年中行事抄
 那古野古圖

東海道名所圖會
 山水奇觀
 梅園奇賞
 養蠶私錄
 正事記
 續古事談
 群書一覽
 本朝怪談故吏
 要根志
 雜拾遺
 塩尻一名白華隨筆
 柳菴隨筆
 常山記談
 百人一首夕話
 尾振田歌
 物類品臨
 本草啟蒙
 日本靈異記
 元亨釋書
 儀軌
 東国高僧傳
 述并記

紀伊国名所圖會
 北越堂譜
 好古小錄
 骨董集
 古今著聞集
 壺叢抄
 統編書畫一覽
 安達盛長聞書
 茶道羊記
 尤ノ草子
 年山打聞
 若右隨筆
 御伽婢子
 御冥加普請記
 豊原統秋跡源抄
 謡曲拾葉抄
 本草正偽
 室物集
 佛祖統記
 弘法大師御入定勘決記與書
 真言古義
 熱田秘釈見聞抄

巖島圖會
 和漢三才圖會
 古今名物類聚
 百鬼夜行
 大著聞集
 塵添壺叢抄
 群書類從本言抄與書
 近世叢話
 蝸牛菴記
 鼠藥記
 玉勝間
 拾葉羊記
 長恨歌傳
 一得松記
 文安田樂能記
 謡曲黒池意神
 大和本草
 沙石集
 淨土血脈論
 延室傳燈錄
 如意藏王陀羅尼經

山海名産圖會
 集古十種
 和漢茶入譜
 異魔話式可誌
 年中行事故實考
 世諺問答
 統群書類從目録
 八幡屋童訓
 菅家後集
 種蘿菴說
 閑田次羊
 羈旅漫遊錄
 古版長恨哥抄
 權馬樂古寫本
 古代手鞠唄
 謡曲楊貴妃
 用藥須知
 無往国師道跡考
 淨土蓮宗論記
 穢跡金剛經
 扶耒禪林僧室傳
 長明發心集

大山祖圖會
 埋麴發香
 皇朝名画拾遺
 繪譜
 古事談
 仙傳拾遺
 鴨島筆中記
 大須摩三郎繪卷物
 辨玉集
 防奠考
 行餘隨筆
 葦笠雨談
 一宵話
 即曲別紙追加曲
 熱田踏哥詩
 本草細目
 靈蘭集
 每往国師雜談集
 三國傳記
 本朝高僧傳
 伽藍開基記
 地藏靈驗記

地藏感應傳 日域洞上傳 賢劫千佛名經真書 大應錄 理趣釋日決抄真書
隨聞往生記 圓光大照禪師行狀 大念佛寺兩祖繪詞傳 七佛說神咒經 實相院門跡系譜
大谷遺跡錄 本願寺系圖 妙心寺六祖傳 覺源禪師略譜 山科連累記
蓮如上人一代記開書 関通和尚行業記 感應寺開山木牌記 開山行狀記 西方四十八願所緣起
甚同寺古文縁起 甚同寺古園 天永寺文明縁起 繼鹿尾山舊記 笠寺古縁起 萬松寺古記録
大御堂寺古縁起 福嚴寺舊記 祐福寺々記 菅津正法寺縁起 性海寺縁起 常徳寺古縁起
妙貞報恩寺記 蜂須賀蓮華寺縁起 島田地蔵縁起 浴地藏縁起 政秀寺々記 七ノ寺縁起
櫻権現縁起 大野葦葉師縁起 洞仙寺記録 淨念寺古記 牛立村願興寺傳記 中村妙行寺記録
一宮地藏寺傳記 天千十八年東大寺古文書 熱田神宮藏嘉祥三年官符 妙興寺藏延文六年寄進狀 宜陽問院廢宜 天福元年十月宣旨
熱田神宮藏嘉祥三年官符 妙興寺藏延文六年寄進狀 建久二年頼朝公寄進狀 正應四年訖宣記 文和三年熱田神領注進狀 永和四年妙興寺寄進狀 同藏建武四年七月證狀
建武五年山崎頼朝寄進狀 性海寺藏建武五年證狀 天文三年大御堂寺勅進帳 尾張國諸社神領廢宜 熱田神宮祈年祭祝詞 曼陀羅寺古證文 妙貞寺藏嘉曆三年沙弥歸覺讓狀 大縣神社神領信長公證狀 長亨二年成田時重寄進狀 妙貞寺藏應永三年寄進狀
曼陀羅寺藏弘治三年十月賣券狀 長亨二年成田時重寄進狀 文安年中御番帳 妙貞寺藏應永三年寄進狀 龜井山圓福寺過去帳 上社村觀音寺過去帳

總計 八百三十六部

日本武尊の神靈白鳥と化して宇都^ノ景^ノ貴媛^ノ命
乃御許よりありて草薙の神劍を慕せたり天翔りて
此處ニ來りて地み御陵平嘗てやうて白鳥に凌ぎ所降
稱へしよの室級本紀小詳ありとて其のいよのつら(か)を
天保八年とふと此妹といふら又此分の風にかしに年経は
大杉倒せとて凌墓成あざとて海の中なる石棺のうぢや梨
上代小をさると思ふ久たくの器物出ていそ神跡のさ福
いぢりていぢりてかといぢりて其時の官より擬せをさし
たぢ小舊の五冬久納りささしはふをいぢりてはのあさり

有しかるを恐るゝ一巻を二つに分ちて子巻を二
巻首小画をせしむれし心の人を志せしむる
むちりて之を四半にせしむる事とせしむる人のあつた
おのゝ首のうゝむる事とせしむる事とせしむる事と
書をかきしむる事とせしむる事とせしむる事と
はは母かきしむる事とせしむる物織人とせしむる一岡田啓
世は道直の二人と相共ふ事とせしむる事とせしむる事と
をかきしむる事とせしむる事とせしむる事とせしむる事と
記しむる事とせしむる事とせしむる事とせしむる事と

深田精一ぬにあまゝししことと論らしむる事とせしむる事と
属しむる四郡を極小彫らせしむる事とせしむる事と
草稿ありしむる事とせしむる事とせしむる事とせしむる事と
帰らぬ事とせしむる事とせしむる事とせしむる事と
おのゝおのゝおのゝおのゝおのゝおのゝおのゝおのゝおのゝ
年ありしむる事とせしむる事とせしむる事とせしむる事と
御代かきしむる事とせしむる事とせしむる事とせしむる事と
月小日に詠めしむる事とせしむる事とせしむる事とせしむる事と
ありしむる事とせしむる事とせしむる事とせしむる事と

ふるまふ名もろも志は人稀よあふ年とほるを官とも
をしめたまふこころや有るをかく鄙ふりの書や母
いを受つひは友版の列ふあしたまひりしは愛知あまの
はる人の行末をも捨てたまひりしはこころのくも
よりこれま有りはかゝる大いあまのり高きを仰き其山を
の尾張はあふ長くしき古本をたふるも志はあはら
本に忠咲うせて幾萬代も朽せ受あまのり光の幸ひあふ
あえ喜びの涙袂にあまれりいや母母はあまのりあふの
かきのむうしにあまのりいもやうまふしはあまのり霊も

あまのりあまのりいしを志しあまのりあまのりあまのり
邦らあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり
あまのりあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり
にこそあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり
のあまのりあまのりあまのりあまのりあまのり

愛知知士族七十一翁少講義小田切去江

明治十三年八月廿六日出版版權屆
明治十三年九月刻成

愛知縣藏版

愛知縣下名古屋區下長者町百十二番邸

印刷

豐原堂稻夫

同縣同區玉屋町二十六番邸

發兌書肆

片野東四郎

